

平成 25 年度

次世代がん治療推進専門家養成プラン 履修要項

東京医科歯科大学・秋 田 大 学
東 京 医 科 大 学・東 京 工 業 大 学
東 京 薬 科 大 学・弘 前 大 学

目 次

プログラム修了の要件並びに履修案内

1. 履修の要件	1
2. 評価、単位認定	3
3. 履修方法	3
4. 他大学生の身分	3
5. 講義時間	4
6. 講義室	4
7. 履修登録の流れ	5
平成25年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン 時間割	6
平成25年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン カリキュラム	9
平成25年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン カレンダー	10

がん専門医師養成コース

総合基礎

がんの分子生物学概論	12
がんの病理・病態学概論	14
がんのシステム生物学概論	16
がんの社会医学概論	18
がんの細胞生物学概論	20

発展

低侵襲がん治療Ⅰ（鏡視下手術）	22
低侵襲がん治療Ⅱ（集学治療）	24
頭頸部がんの診療	26
臓器別がんの診療	28
臨床腫瘍学Ⅰ・Ⅱ	30
がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ（MMA：臨床研究・治験）	32
がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ（MMA：健康情報データベースと統計分析）	33

放射線療法

放射線基礎・放射線応用	34
-------------	----

化学療法

抗がん剤薬理学概論Ⅰ・Ⅱ	36
がん化学療法特論（基礎と臨床）	38

緩和基礎

緩和医療学概論	40
精神腫瘍学特論	42
緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	44

緩和基礎

症状マネジメント（基礎編）	46
症状マネジメント（応用編）	48
緩和ケア実践	50

メディカルスタッフ養成コース

医学物理士養成コース・放射線治療品質管理士養成コース

科目一覧表	54
-------------	----

がん医療事務職員養成コース

がん登録、地域支援、医事会計コース

医療保険論	56
医療計画制度	57
医療のTQM	58
医療機能評価	59
医療制度と法	60
医事紛争と法	61
生命倫理と法	62
病院情報管理学	63
診療情報管理学	64
財務・会計	65
医学概論	66
臨床研究・治験（がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ）	32
健康情報データベースと統計分析（がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ）	33

他大学生の施設の利用、学内の掲示、生活協同組合、図書館	67
キャンパス案内	68
東京工業大学地図	70

プログラム修了の要件並びに履修案内

1. 修了の要件

○がん専門医師養成コース

- * 低侵襲がん治療専門医養成
- * がん臨床研究・エビデンス実践医療人養成
- * 総合腫瘍医養成
- * 放射線療法専門医師養成
- * 化学療法専門医師養成
- * 緩和ケア専門医師養成

以下の1および2を満たし、本プログラムの修得単位を含めて課程が求める単位数以上を修得し、かつ必要な論文指導を受けた上で、医歯学総合研究科が行う論文の審査及び最終試験に合格することが修了要件となる。

1. 講義および演習を6単位以上（必修科目（選択必修）＋推奨科目）修得。コースによって必修科目数が違うので注意すること。
2. 実習の修得。実習は個人の経歴により単位数に換算出来るものと出来ないものがある。実習については以下のa～cどれに該当するのかコースの実習指導教員に相談すること。
 - a. 時期、期間を個別に設定し、実習を実施（1～4週間、1～4単位）
 - b. 社会人大学生など、外部施設で経験がある場合。
→指導教員が実績等を勘案し、不要と判断した場合は免除（単位なし）
 - c. 大学に勤務し、専門の臨床業務を行っている場合
→診療科長が実績等を勘案し、不要と判断した場合は免除（単位なし）

* 実習指導教員 *

- * 低侵襲がん治療専門医養成コース、がん臨床研究・エビデンス実践医療人養成コース

小嶋一幸 教授 低侵襲医学研究センター
植竹宏之 准教授 応用腫瘍学講座

- * 放射線療法専門医師養成コース

三浦雅彦 教授 口腔放射線腫瘍学分野

- * 総合腫瘍医養成コース

三宅 智 教授 臨床腫瘍学分野

*** 化学療法専門医師養成コース**

三宅 智 教授 臨床腫瘍学分野
大岡真也 准教授 臨床腫瘍学分野
植竹宏之 准教授 応用腫瘍学講座
新井文子 講師 血液内科学分野
坂下博之 助教 臨床腫瘍学分野

*** 緩和ケア専門医師養成コース**

三宅 智 教授 臨床腫瘍学分野

○メディカルスタッフコース

*** 医学物理士養成コース**

*** 放射線治療品質管理士養成コース**

各コースに設定された講義、演習、実習の必修科目全体の 3/4 以上の科目において単位を修得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。なお、本コースを履修する学生が属する課程については、本プログラムでの取得単位を含めて課程が求める修了要件に従うものとする。

○インテンシブコース

*** がん医療事務職員養成コース**

・がん登録 ・地域支援 ・医事会計

以下の 1 および 2 を満たした場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。

1. 講義科目（9 科目）において 6 単位以上の修得。
2. 実習科目 2 単位の修得。病歴管理、医療支援センター、医事課での実習を実施。
ただし、その部署に勤務している職員は、単位は付与せずに実習を免除とします。
（勤務は実習とはみなされないため）

*** がん医療専門医師研修コース**

それぞれの研修専門分野において実施される講義科目において 8 単位以上修得した場合に、本コースのプログラムを修了したものとする。

研修専門分野 → ・低侵襲がん治療 ・がん臨床研究・エビデンス実践医療
・総合腫瘍 ・放射線療法 ・化学療法 ・緩和ケア

2. 評価、単位認定

○評価の方法

出席状況、授業態度、レポート、小テスト等によって評価する。

○単位認定

単位認定はプログラム全ての講義が終了した後に行われる。（年度末）

なお、このプログラムで認定された単位は、医歯学総合研究科博士課程医歯学系専攻の卒業要件単位に含むことが出来る。

○修了証

所属する研究科の最終試験に合格し、本プログラムの修了要件を満たした時に発行する。

3. 履修方法

○履修方法

***がん専門医師養成コース、メディカルスタッフコース、
インテンシブコース（がん医療専門医師研修コース）**

本プログラム専用の「履修届」を下記の登録期間内に教務課大学院室へ提出する。

「履修届」は教務課前掲示板にあります。

他大学の学生は所属する大学担当者を通じて履修登録をする。

*** インテンシブコース（がん医療事務職員養成コース）**

希望者は所属部署を通じて履修登録を行う。

○履修登録受付

平成25年4月9日（火） ～ 平成25年4月19日（金）17：00まで

○履修の可否及び通知

不可の場合のみ連絡

○履修放棄について

履修登録をした科目で出席不足・レポート未提出は、すべて「履修放棄」とみなし、評価しない。

4. 他大学生の身分

「特別聴講学生」とする。履修期間は履修する授業科目が開講されている授業期間とする。

5. 講義時間

○がん専門医師養成コース

1 時限 18 : 30 ~ 19 : 50

2 時限 19 : 50 ~ 21 : 10

質疑応答 21 : 10 ~ 21 : 30

原則として上記時間帯に講義を行う。

○メディカルスタッフコース

* 医学物理士養成コース

東京工業大学の定める時間割に従うものとする。

○インテンシブコース

* がん医療事務職員養成コース

・ がん登録 ・ 地域支援 ・ 医事会計

1 時限 18 : 00 ~ 19 : 30

2 時限 19 : 40 ~ 21 : 10

原則として上記時間帯に講義を行う。

6. 講義室

○がん専門医師養成コース

・ 東京医科歯科大学 M&D タワー 11 階 大学院講義室 3

* 原則として、上記講義室で実施するが、都合により変更になることもある。

○メディカルスタッフコース

* 医学物理士養成コース

* 放射線治療品質管理士養成コース

東京工業大学 田町キャンパス CIC (キャンパスイノベーションセンター) において実施。

詳細は東京工業大学で定める。

○インテンシブコース

* がん医療事務職員養成コース

・ がん登録 ・ 地域支援 ・ 医事会計

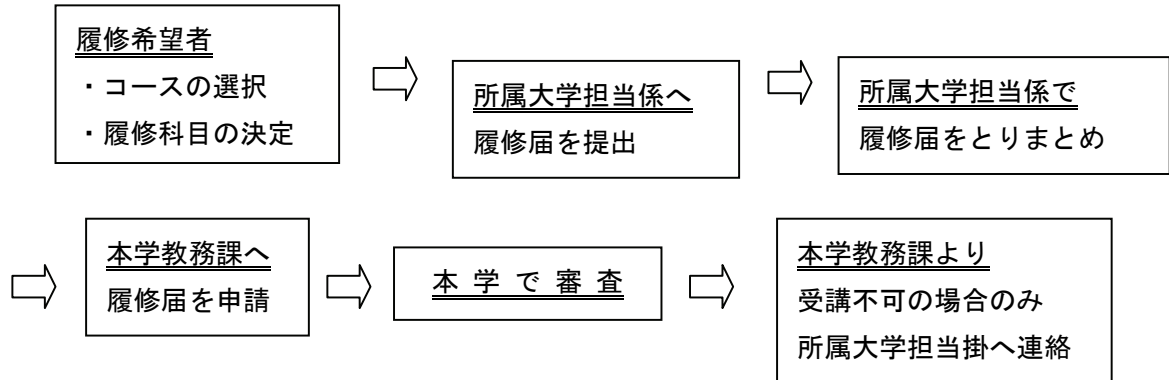
・ 東京医科歯科大学 M&D タワー 13 階 大学院講義室 2

* 原則として、上記講義室で実施するが、都合により変更になることもある。

詳細は本学の MMA コースで定める。

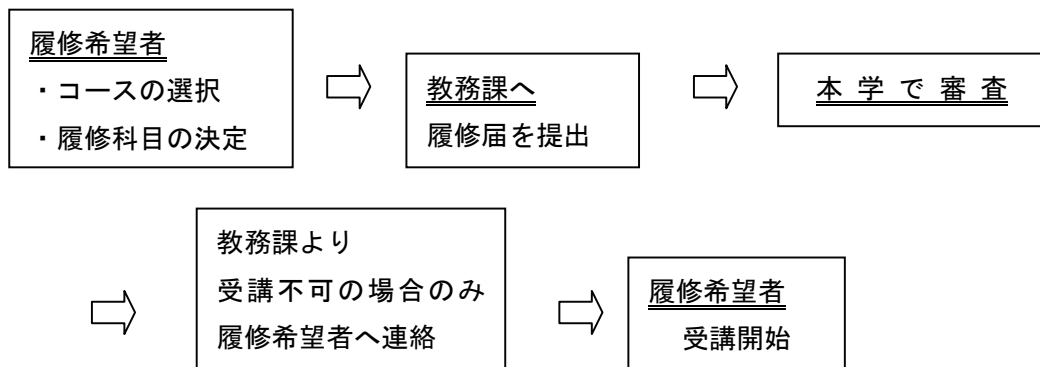
○履修登録の流れ

協定大学の学生が履修する場合



1. コースを選択し、履修科目の決定
2. 履修届けを記入（東京医科歯科大学がんプロ専用様式）
3. **所属大学取りまとめ担当係へ提出**
（取りまとめ担当係は大学により異なるため各大学へ問合せてください）
4. 所属大学とりまとめ担当係が本学学務部教務課大学院室へ受講申請（履修届を提出）
5. 本学より所属大学とりまとめ担当係へ受講不可の場合のみ連絡
6. 受講開始

本学の学生が履修する場合



1. コースを選択し、履修科目の決定
2. 履修届けに記入
3. 履修届けを学務部教務課大学院室に提出
4. 研究科運営委員等の審査 受講不可の場合のみ履修希望者へ連絡
5. 受講開始

平成25年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン 時間割

種別	ページ	科 目 名	教室	単位	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
						1日目(月)	2日目(火)	3日目(水)	4日目(木)	5日目(金)
総合基礎										
総合基礎	12	がんの分子生物学概論	A11	1	湯浅保仁	4月22日	4月23日	4月24日	4月25日	4月26日
						秋山好光	澁谷正史	島田 周	深町博史	湯浅保仁
	14	がんの病理・病態学概論	A11	1	江石義信	祝日	5月7日	5月8日	5月9日	5月10日
							江石義信 北川昌伸	沢辺元司 小林大輔	秋田恵一	倉田盛人 明石 巧
	16	がんのシステム生物学概論	A11	1	田中 博	5月13日	5月14日	5月15日	5月16日	5月17日
						田中 博	茂櫛 薫	荻島創一	飯島久美子	高井貴子
	18	がんの社会医学概論	A11	1	三宅 智	5月20日	5月21日	5月22日	5月23日	5月24日
						河原和夫	吉田雅幸	富田 誠	中山健夫	小池竜司
	20	がんの細胞生物学概論	A11	1	水谷修紀	5月27日	5月28日	5月29日	5月30日	5月31日
						中釜 斉	畑 裕	水谷修紀 高木正稔	清水重臣 寺岡弘文	寺岡弘文 吉岡研一
総合演習		包括的がん治療学演習	A	1	三宅 智	キャンサーボードにて実施 追って詳細連絡				
専門医養成コース										
発展	22	低侵襲がん治療Ⅰ（鏡視下手術）	A11	1	三宅 智	6月3日	6月4日	6月5日	6月6日	6月7日
						吉木尚之 杉本太郎	梶原直央 小林宏寿	佐藤隆宣 伴 大輔	沼尾 昇 石橋洋則	小嶋一幸 河野辰幸
	24	低侵襲がん治療Ⅱ（集学治療）	A11	1	三浦雅彦	6月10日	6月11日	6月12日	6月13日	6月14日
						藤内 祝 秋元哲夫	植竹宏之 唐澤克之	高井良尋 青木昌彦	鎌田 正 林 敬二	石川敏昭 吉村亮一
	26	頭頸部がんの診療	A11	1	岸本誠司	11月11日	11月12日	11月13日	11月14日	11月15日
						岡崎 睦 角 卓郎	岸本誠司 田原 信	落合淳志 杉本太郎	谷口 尚 鵜澤成一	澁谷 均 原田浩之
	28	臓器別がんの診療	A11	1	三宅 智	11月18日	11月19日	11月20日	11月21日	11月22日
						澤村千草 植竹宏之 佐藤隆宣	尾崎喜一 田中真二 中島康晃	新井文子 坂下博之	西澤 綾 梶原道子 田村 郁	齊藤一隆 井ノ口幹人 大久保憲一
	30	臨床腫瘍学Ⅰ	A11	1	三宅 智	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
						未定	未定	未定	未定	
	30	臨床腫瘍学Ⅱ	A11	1	三宅 智	11月25日	11月26日	11月27日	11月28日	11月29日
						未定	未定	未定	未定	
	32	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ （MMA：臨床研究・治験）	A13	1	安原真人	12月9日	12月10日	12月11日	12月12日	12月13日
						津谷喜一郎	高瀬浩造	津谷喜一郎	小池竜司	
33	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ （MMA：健康情報データベースと統計分析）	A13	1	高瀬浩造	12月16日	12月17日	12月18日	12月19日	12月20日	
					水嶋春朔	高瀬浩造	高瀬浩造	高瀬浩造		
放射線療法専門医養成コース										
放射線基礎	34	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	三浦雅彦	9月17～20日、9月24～27日（左記期間内の5日間）				
						阿部慎司	阿部慎司	阿部慎司	木藤哲史	木藤哲史
	34	腫瘍放射線生物学特論	C	1	三浦雅彦	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
						三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊裕	三浦雅彦
34	腫瘍放射線診断学・核医学特論	C	1	大橋 勇	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日	
					大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	鳥井原彰	鳥井原彰	
放射線応用	34	腫瘍放射線治療学特論	C	1	澁谷 均	祝日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
							澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均
化学療法専門医養成コース										
化学療法	36	抗がん剤薬理学概論Ⅰ	A11	1	安原真人	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
						安原真人	谷川原祐介	岡田弘晃		玉井郁巳
		抗がん剤薬理学概論Ⅱ	A11	1	安原真人	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	11月1日
	三木義男					小竹良彦		林 良雄	永田将司	
	38	がん化学療法特論（基礎と臨床）	A11/B	1	平野俊彦	祝日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日
						山田安彦	下枝貞彦	杉浦宗敏	平野俊彦	
緩和ケア専門医養成コース										
緩和基礎	40	緩和と医療学概論	A11	1	三宅 智 松島英介	6月17日	6月18日	6月19日	6月20日	6月21日
						三宅 智	鈴木莊一	秋山 修	小池真規子	松下年子
	42	精神腫瘍学特論	A11	1	松島英介	6月24日	6月25日	6月26日	6月27日	6月28日
						松島英介	清水 研	野口 海	小川朝生	大西秀樹
44	緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	A11	1	三宅 智	7月1日	7月2日	7月3日	7月4日	7月5日	
					山田陽介	吉澤明孝	田中佳子	堀 夏樹	三宅 智	
緩和応用	46	症状マネジメント（基本編）	A11	1	三宅 智	7月8日	7月9日	7月10日	7月11日	7月12日
						小澤美和	林 章敏	下山直人	高野利実	小澤竹俊
	48	症状マネジメント（応用編）	A11	1	三宅 智	祝日	7月16日	7月17日	7月18日	7月19日
							市川雄二	的場元弘	三宅 智	永井英明
	50	緩和ケア実践	A11	1	三宅 智	7月22日	7月23日	7月24日	7月25日	7月26日
樋口比登実						三宅 智	保坂 隆	荻原隆二	行田泰明	

種別	ページ	科 目 名	教室	単位	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
						1日目(月)	2日目(火)	3日目(水)	4日目(木)	5日目(金)
医学物理士養成コース・放射線治療品質管理士コース										
基礎	54	医歯工学概論	C	1	(未定)	8月26日～8月30日 18:30～20:45				
	54	人間安全工学	C	1	伊能教夫	9月2日～9月6日 15:45～18:00				
	54	人体機能学	C	1	高瀬浩造	9月2日～9月6日 18:30～20:45				
	54	人体解剖・病態学	C	1	高瀬浩造	9月9日～9月13日 18:30～20:45				
医学物理 ・医工学	54	医用画像情報学	C	2	小尾高史	未定 9:55～12:10				
	54	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	高瀬浩造 三浦雅彦	9月17日～9月20日、9月24日～9月27日(左記期間内の5日間) 18:30～20:45				
	54	医用放射線生物学	C	1	高瀬浩造 三浦雅彦	9月30日～10月4日 18:30～20:45				
	54	医用放射線診断学・核医学	C	1	高瀬浩造 大橋 勇	10月7日～10月11日 18:30～20:45				
	54	放射線治療学	C	1	高瀬浩造 渋谷 均	10月15日～10月18日 18:30～20:45				
	54	放射線治療物理学	C	2	河野俊之	10月21日～10月25日、10月28日～11月1日 18:30～20:45				
	54	核医学物理学	C	1	河野俊之	10月21日～10月25日 15:45～18:00				
	54	医用放射線発生装置学	C	1	小栗慶之	10月28日～11月1日 15:45～18:00				
	54	医療機器開発概論	C	2	(未定)	未定 15:45～18:00				
	54	放射線医療実習	C	1	河野俊之	未定				
がん医療事務職員養成コース										
MMA	56	医療保険論	A13	1	佐藤主光	4月16日(火) 佐藤主光	4月23日(火) 中泉真樹	5月7日(火) 中泉真樹	6月4日(火) 佐藤主光、田近栄治、中泉真樹	
	57	医療計画制度	A13	1	河原和夫	5月20日 河原和夫	5月21日 近藤太郎	5月22日 近藤太郎	5月23日 河原和夫	5月24日 榎本真幸
	58	医療のTQM	A13	1	高瀬浩造	11月25日 飯塚悦功	11月26日 高瀬浩造	11月27日 高瀬浩造	11月28日 小林美亜	11月29日 高瀬浩造
	59	医療機能評価	A13	1	河原和夫	6月17日 信友浩一	6月18日 河原和夫	6月19日 河原和夫	6月20日 河北博文	6月21日 河原和夫
	60	医療制度と法	A13	1	磯部 哲	6月24日 磯部 哲	6月25日 磯部 哲	6月26日 松下一章	6月27日 磯部 哲	6月28日 磯部 哲
	61	医事紛争と法	A13	1	滝沢昌彦	8月26日 滝沢昌彦	8月27日 南出行生	8月28日 南出行生	8月29日 南出行生	8月30日 南出行生
	62	生命倫理と法	A13	1	磯部 哲	祝日 松下一章	7月16日 松下一章	7月17日 松下一章	7月18日 磯部 哲	7月19日 磯部 哲
	63	病院情報管理学	A13	1	高瀬浩造	7月8日 高瀬浩造	7月9日 高瀬浩造	7月10日 高瀬浩造	7月11日 松浦 亨	7月12日 高瀬浩造
	64	診療情報管理学	A13	1	伏見清秀	7月22日 麻生 玲子 前田まゆみ	7月23日 伏見清秀	7月24日 伏見清秀	7月25日 高瀬浩造	7月26日 桑原比呂世
	65	財務・会計	A13	1	荒井 耕	10月26日(土) 荒井 耕	10月26日(土) 荒井 耕	10月27日(日) 荒井 耕	10月27日(日) 荒井 耕	10月28日 荒井 耕
	66	医学概論	A13	1	高瀬浩造	5月8日(水) 高瀬浩造	5月9日(木) 高瀬浩造	5月10日(金) 高瀬浩造	6月13日(木) 高瀬浩造	6月14日 高瀬浩造
	32	臨床研究・治験	A13	1	安原真人	12月9日 津谷喜一郎	12月10日 高瀬浩造	12月11日 高瀬浩造	12月12日 津谷喜一郎	12月13日 小池竜司
	33	健康情報データベースと統計分析	A13	1	高瀬浩造	12月16日 水嶋春朔	12月17日 高瀬浩造	12月18日 高瀬浩造	12月19日 高瀬浩造	12月20日 高瀬浩造
実務		放射線治療品質管理学演習	A	2	三浦雅彦					
病院実習										
病院実習		低侵襲がん治療病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	植竹宏之					
		がん臨床研究・エビデンス実践医療実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	植竹宏之					
		がん放射線療法病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	三浦雅彦					
		がん化学療法病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	三宅 智					
		緩和ケア病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	三宅 智					
		放射線測定実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	三浦雅彦					
		放射線病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	三浦雅彦					
		がん登録実習		2	高瀬浩造					
		がん地域支援実習		2	高瀬浩造					
	がん医事会計実習		2	高瀬浩造						

A:東京医科歯科大学 M&Dタワー(横数字は教室階数)
B:東京薬科大学(遠隔講義)
C:東京工業大学 医歯工学特別コース(CIC 田町)

●平成25年度 カリキュラム

種別	科目名	教室	単位	専 門 医 師						メディカルスタッフ		インテンシブ					
				低侵襲がん治療専門医	がん臨床研究・エビデンス実践医療人	総合腫瘍医養成	放射線専門医師	化学療法専門医師	緩和医療専門医師	医学物理士	放射線治療品質管理士	がん医療事務職員養成			がん医療専門医師研修		
				平成24年4月開始	平成24年4月開始	平成25年4月開始	平成20年4月開始	平成20年4月開始	平成20年4月開始	平成20年4月開始	平成20年4月開始	平成20年4月開始	がん登録	地域支援	医事会計	平成20年4月開始	
[総合基礎]																	
総合基礎	がんの分子生物学概論	A	1	○	○	○	●	●	○	○	●				★		
	がんの細胞生物学概論	A	1	○	○	○	●	●	○	○	●				★		
	がんの病理・病態学概論	A	1	○	○	○	○	●	○						★		
	がんのシステム生物学概論	A	1	○	○	○	○	○	○								
	がんの社会医学概論	A	1	○	○	○	○	○	○			★	★	★	★		
総合演習	包括的がん治療学演習	A	1	○	○	●	●	●	●	●	●				★		
【専門医養成コース】																	
発展	低侵襲がん治療Ⅰ（鏡視下手術）	A	1	●		○	○	○	○						★		
	低侵襲がん治療Ⅱ（集学治療）	A	1	●		○	○	○	○						★		
	頭頸部がんの診療	A	1			○	○	○	○						★		
	臓器別がんの診療	A	1			○	○	○	○						★		
	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ	A	1		●	○	○	○	○						★		
	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ	A	1		●	○	○	○	○						★		
	臨床腫瘍学Ⅰ	A	1			●									★		
	臨床腫瘍学Ⅱ	A	1			●									★		
放射線基礎	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1	○	○		●								★		
	腫瘍放射線生物学特論	C	1	○	○		○								★		
	腫瘍放射線診断学・核医学特論	C	1	○	○		○								★		
放射線応用	腫瘍放射線治療学特論	C	1	○	○	○	●								★		
化学療法	抗がん剤薬理学概論Ⅰ	A	1	○	○			●							★		
	抗がん剤薬理学概論Ⅱ	A	1	○	○			●							★		
	がん化学療法特論（基礎と臨床）	A/B	1	○	○	○		●							★		
緩和基礎	緩和医療学概論	A	1			○			●						★		
	精神腫瘍学特論	A	1			○			●						★		
	緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ	A	1			○			●						★		
緩和応用	症状マネジメント（基本編）	A	1			○			●						★		
	症状マネジメント（応用編）	A	1			○			●								
	緩和ケア実践	A	1			○	○	○	○						★		
【医学物理士コース・放射線治療品質管理士コース】																	
基礎	医歯工学概論	C	1							●	●						
	人間安全工学	C	1							●	●						
	人体機能学	C	1							●	○						
	人体解剖病態学	C	1							●	○						
	医用画像情報学	C	2							●	○						
	放射線物理学・放射線技術学特論	C	1							●	○						
	医用放射線生物学	C	1							●	●						
	医用放射線診断学・核医学	C	1							●	○						
	核医学診断学	C	1							●	○						
	放射線治療学	C	1							●	●						
	放射線治療物理学	C	2							●	●						
	核医学物理学	C	1							●	●						
	医用放射線発生装置学	C	1							●	●						
	医療機器開発概論	C	2							●							
放射線医療実習	C	1							○	●							
【がん医療事務職員養成コース】																	
MMA	医療保険論（1－4）	A	1									★	★	★			
	医療計画制度（1－6）	A	1									★	★	★			
	医療のTQM（2－3）	A	1										★				
	医療機能評価（2－4）	A	1											★			
	医療制度と法（3－1）	A	1										★				
	医事紛争と法（3－2）	A	1											★			
	生命倫理と法（3－3）	A	1									★					
	病院情報管理学（4－1）	A	1									★	★	★			
	診療情報管理学（4－2）	A	1									★	★	★			
	財務・会計（7－2）	A	1											★			
	医学概論（9－3）	A	1									★	★	★			
	臨床研究・治験（10－1）	A	1									★	★				
	健康情報データベースと統計分析（10－2）	A	1									★					
実務	放射線治療品質管理学演習	A	2								●						
病院実習	低侵襲がん治療病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4	●													
	がん臨床研究・エビデンス実践医療実習Ⅰ～Ⅳ		1～4		●												
	総合腫瘍医病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4			●											
	がん放射線療法病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4				●										
	がん化学療法病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4					●									
	緩和ケア病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4						●								
	放射線測定実習Ⅰ～Ⅳ		1～4							●	●						
	放射線病院実習Ⅰ～Ⅳ		1～4							○	●						
	がん登録実習		2									★					
	がん地域支援実習		2										★				
がん医事会計実習		2											★				

A:東京医科歯科大学
B:東京薬科大学
C:東京工業大学

● 必修科目(選択必修科目)
○ 推奨科目

★ インテンシブコース選択科目

日本がん治療認定医機構のセミナー科目内容に対応

平成25年度 次世代がん治療推進専門家養成プラン カレンダー

月	日	時 限	月	火	水	木	金	土 日	講 義 場 所	科 目 責 任 者	備 考
4月	16	18:00～21:10		医療保険論					A13	佐藤主光	
	22～26	1	がんの分子生物学概論						A11	湯浅保仁	
		2									
	23	18:00～21:10		医療保険論					A13	佐藤主光	
5月	7～10	18:00～21:10		医療保険論	医学概論				A13	高瀬浩造	
	7～10	1		がんの病理・病態学概論				A11	江石義信		
		2									
	13～17	1	がんのシステム生物学概論				A11	田中 博			
		2									
	20～24	1	がんの社会医学概論				A11	三宅 智			
		2									
10～24	18:00～21:10	医療機能評価		医療機能評価			A13	河原和夫			
27～31	1	がんの細胞生物学概論				A11	水谷修紀				
	2										
6月	3～7	1	低侵襲がん治療Ⅰ（鏡視下手術）					A11	三宅 智		
		2									
	8～11	18:00～21:10	病院情報管理学				A13	高瀬浩造			
	10～14	1	低侵襲がん治療Ⅱ（鏡視下手術）				A11	三浦雅彦			
		2									
	17～21	1	緩和医療学概論				A11	三宅 智 松島英介			
		2									
	17～20	18:00～21:10	医療機能評価				A13	磯部 哲			
24～28	1	精神腫瘍学特論					A11	松島英介			
	2										
24～27	18:00～21:10	医療制度と法				A13	磯部 哲				
7月	1～5	1	緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ					A11	三宅 智		
		2									
	8～12	1	症状マネジメント(基本編)				A11	三宅 智			
		2									
	16～19	1		症状マネジメント(応用編)				A11	三宅 智		
		2									
	16～19	18:00～21:10		医事紛争と法				A13	磯部 哲		
22～26	1	緩和ケア実践				A11	三宅 智				
	2										
22～26	18:00～21:10	診療情報管理学			診療情報 管理学		A13	伏見清秀			
8月	26～30	18:00～21:10	医事紛争と法				A13	滝沢昌彦			
	26～30	18:30～20:45	医歯工学概論					C	(未定)		
9月	2～6	15:45～18:00	人間安全工学					C	伊能教夫		
	2～6	18:30～20:45	人体機能学					C	高瀬浩造		
	9～13	18:30～20:45	人体解剖・病態学					C	高瀬浩造		
	(未定)	(未定)	医用画像情報学					C	小尾高史		
	(未定)	18:30～20:45	放射線物理学・放射線技術学特論					C	高瀬浩造 三浦雅彦	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義	
	(未定)	15:45～18:00	医療機器開発概論					C	(未定)		
	30～10/4	18:30～20:45	腫瘍放射線生物学特論/医用放射線生物学					C	高瀬浩造 三浦雅彦	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義	
10月	7～10	1	臨床腫瘍学Ⅰ				A11	三宅 智			
		2									
	7～11	18:30～20:45	腫瘍診断学・核医学特論/医用放射線診断学・核医学診断学				C	高瀬浩造 渋谷 均	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義		
	15～18	18:30～20:45		腫瘍放射線治療学特論/放射線治療学			C	高瀬浩造 渋谷 均	専門医師コース、 コメディカルコース共通講義		
	21～25	1	抗がん剤薬理学概論Ⅰ			抗がん剤 薬理学概論Ⅰ		A11	安原真人		
		2									
	26～27	未定						財務・会計	A13	新井 耕	集中講義 時間未定
	22～26	15:45～18:00	核医学物理学					C	山谷泰賀		
	22～26	18:30～20:45	放射線治療物理学					C	河原俊之		
	29～11/2										
29～11/2	15:45～18:00	医用放射線発生装置学					C	小栗慶之			
28～11/1	1		抗がん剤薬理学概論Ⅱ			抗がん剤薬理学概論Ⅱ			A11	安原真人	
	2										
11月	5～8	1		がん化学療法特論(基礎と臨床)				A11/B	平野俊彦		
		2									
	11～15	1	頭頸部がんの診療				A11	岸本誠司			
		2									
	18～22	1	臓器別がんの診療				A11	三宅 智			
		2									
25～28	1	臨床腫瘍学Ⅱ				A11	三宅 智				
	2										
25～28	18:00～21:10	医療のTQM				A13	高瀬浩造				
12月	9～12	18:00～21:10	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ /臨床研究・治験			がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ /臨床研究・治験			A13	安原真人	専門医師コース、 インテンシブコース共通講義
	16～19	18:00～21:10	がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ /健康情報データベースと統計分析				A13	高瀬浩造	専門医師コース、 インテンシブコース共通講義		

1限: 18:30～19:50
2限: 19:50～21:10
質疑応答: 21:10～21:30

A: 東京医科歯科大学M&Dタワー(横数字は教室の階数)
B: 東京薬科大学
C: 東京工業大学(CIC 田町)

がん専門医師養成コース

がんプロシラバス

種別:総合基礎

科目名: **がんの分子生物学概論 (Molecular and Cellular Biology of Cancer)**

科目担当責任教員:

湯浅 保仁 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 教授 (yuasa.monc@tmd.ac.jp)

科目担当教員:(講義順)

秋山 好光 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 講師

澁谷 正史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 客員教授
学校法人学文館 上武大学副学長、東京大学名誉教授

島田 周 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 助教

深町 博史 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
分子腫瘍医学分野 講師

授業予定日:平成25年4月22日(月) ~ 4月26日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- * がん遺伝子とがん抑制遺伝子の機能、およびがん発症におけるそれら遺伝子の異常について理解する。
- * 発がん物質、がん化に関連する感染症、遺伝性がんについて理解する。
- * がんの分化制御因子と、分化誘導療法について理解する。
- * がんと血管の関わり、およびがんの血管新生阻害療法について理解する。

(2) 授業の概要

発がんの分子機構の理解に重要ながん遺伝子とがん抑制遺伝子の種類および機能的役割について説明する。さらに、これらの遺伝子のヒトがんにおける異常や検出法、発がん物質・分化・血管新生などとの関連について解説する。また、がんの増殖・悪性化における血管新生の意義、分化誘導療法の有用性についても述べる。

2) 授業計画

4月22日(月)	(担当: 秋山)	がん遺伝子とがん抑制遺伝子
4月23日(火)	(担当: 澁谷)	がんと血管新生
4月24日(水)	(担当: 島田)	遺伝性がん
4月25日(木)	(担当: 深町)	がんと分化
4月26日(金)	(担当: 湯浅)	発がん物質、がん化に関連する感染症

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学のトピックスは、発がん過程だけでなく、最新のがん治療とも関連が深い。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

ワインバーグ著、武藤誠他訳「がんの生物学」南江堂 2008 年出版: R.A.Weinberg 著「The biology of cancer」Garland Science, 2007 年の日本語訳である。がん関連遺伝子、がんウイルス、シグナル伝達、細胞増殖、血管新生、転移、がん免疫などがんの基礎的知見についてわかりやすく網羅している好著である。

日本語では、澁谷正史・湯浅保仁編「がん生物学イラストレイテッド」羊土社 2011 年出版がよい。いくつかの雑誌(「実験医学」、「細胞工学」、「蛋白質・核酸・酵素」など)のがんの特集は、理解の参考になる。

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別:総合基礎

科目名: **がんの病理・病態学概論** (Overview of cancer: pathology and anatomy)

科目担当責任教員:

江石 義信 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
人体病理学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

北川 昌伸 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
包括病理学分野 教授

沢辺 元司 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科
分子病態検査学分野 教授

小林 大輔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
人体病理学分野 助教

秋田 恵一 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床解剖学分野 教授

倉田 盛人 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
包括病理学分野 講師

明石 巧 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
病理診断科学分野 准教授

授業予定日:平成25年5月7日(火) ～ 5月10日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・医療における癌の病理診断(良性と悪性、浸潤や転移)について、その方法と診断までの過程について理解する。
- ・癌の悪性度判断の重要性について、治療法との関連において理解する。
- ・早期癌の診断と治療について、進行癌との対比において理解する。
- ・治療による癌病巣の変化について理解する。
- ・癌の転移経路となるリンパ行路について理解する。
- ・癌の動注療法に用いられる動脈配置について理解する。

(2) 授業の概要

医療における病理診断の実例を題材として、癌の良性悪性、浸潤や転移がどのように観

察され、診断されているのかを解説する。また一口に癌と言っても悪性度は様々であり、それによって治療方針なども異なるので、病理の立場からその情報が臨床の現場でどのように生かされているのかを解説する。

わが国は癌の早期診断が進歩しており、諸外国に比べ早期癌の診断・治療の機会が多いので、実例を示しながらその診断と治療について解説する。

化学療法や放射線治療によって癌の病巣はどのように変化するのかについて解説し、さらに各臓器に発生する癌の姿はどのように異なるかについて、その発生母地の違いの観点から解説する。

さらに解剖学的観点から、癌治療ならびに癌の転移の理解に必要な、脈管系を中心とした解剖学について解説する。

2)授業計画

5月 7日(火)	(担当:江石)	癌の良性悪性診断
	(担当:北川)	癌の浸潤と転移
5月 8日(水)	(担当:沢辺)	癌の発生部位と多様性
	(担当:小林)	癌の異型度と悪性度
5月 9日(木)	(担当:秋田)	癌の診断・治療に必要な解剖学
5月10日(金)	(担当:倉田)	早期癌と進行癌
	(担当:明石)	癌と治療効果

3) 授業に際し学生の留意点

(ア) 授業への準備・予習

解剖学、組織学

(イ) 他の授業科目との関連性

癌の発生や進展の基礎について、細胞生物学総論、分子生物学概論の内容と関連する。

4) 学生への評価方法

出席状況、および授業内容の理解度によって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

特になし

がんプロシラバス

種 別:総合基礎

科目名: **がんのシステム生物学概論 (Cancer Systems Biology)**

科目担当責任教員:

田中 博 東京医科歯科大学難治疾患研究所
生命情報学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

茂櫛 薫 東京医科歯科大学難治疾患研究所
生命情報学分野 助教

荻島 創一 東北大学東北メディカルメガバンク機構 講師

飯島 久美子 東京医科歯科大学難治疾患研究所
生命情報学分野 特任助教

高井 貴子 東北大学東北メディカルメガバンク機構 准教授

授業予定日: **平成25年5月13日(月) ～ 5月17日(金)**

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- システム生物学、オミックス情報学の基本的概念について理解する。
- がんにおけるゲノム異常、遺伝子発現異常などの実例を学ぶ
- がんの遺伝子発現解析について、パスウェイマップ等を用いて解析する手法を学ぶ

(2) 授業の概要

近年の網羅的分子計測法の発展により、ゲノム情報のみならず、トランスクリプトーム・プロテオームなどの各手法において、ハイスループットな解析が可能になった。これらの網羅的分子情報は、オミックス情報と総称される。オミックス情報は、これまでの臨床情報や病理情報、あるいは生活習慣環境情報と関連付けることによって、分子から個体レベルまで総体として疾患のメカニズムを理解できるだけでなく、従来にはない精度で疾患の経過、重症化、予後を予測できると期待されている。

こうしたシステム生物学、オミックス情報学の基本的概念とがんの診断や治療における個別化、

およびがんの予防における有用性について概説する。

2) 授業計画

- 5 月 13 日(月) (担当:田中) がんのシステム生物学概論
- 5 月 14 日(火) (担当:茂櫛) がんのシステム解析
- 5 月 15 日(水) (担当:荻島) がんのシステム生物学
- 5 月 16 日(木) (担当:飯島) がんのシステム生物学の実験手法
- 5 月 17 日(金) (担当:高井) 疾患データベースとトランスレーショナル研究

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

がんに関する分子生物学的な研究の概要を理解していることが望ましい

(2) 他の授業科目との関連性

他の総合基礎科目ならびに最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

(3) その他

これからの時代のがん臨床研究に興味ある学生の聴講を期待する。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

授業において紹介する

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種 別:総合基礎

科目名: **がんの社会医学概論** (Social medicine of cancer)

科目担当責任教員:

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

河原 和夫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
政策科学分野 教授

吉田 雅幸 東京医科歯科大学学内共同教育研究施設
生命倫理研究センター長 教授

富田 誠 東京医科歯科大学医学部附属病院
臨床試験管理センター 特任准教授

中山 健夫 京都大学大学院医学研究科
社会健康医学系専攻健康情報学分野 教授

小池 竜司 東京医科歯科大学医学部附属病院
臨床試験管理センター長 准教授

授業予定日: **平成25年5月20日(月) ～ 5月24日(金)**

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 疫学の基本的考え方・方法論を理解し、臨床・研究・健康政策の検討に活用する基礎を学ぶ。
- ② 医療統計の基礎と臨床研究・治験を行うために必要な統計学を理解する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に理解しておくべき倫理学を学ぶ。
- ④ 地域医療計画、特にがんに関する医療計画を学ぶ。
- ⑤ 治験・臨床試験に関する基本的法規・規制および倫理的指針を理解し、その計画・実施・評価に関する基本的知識を習得する。

(2) 授業の概要

- ① 疫学の基本的な考え方である、母集団、バイアス、交絡、比較などを解説し、疫学研究の方法論として記述疫学、観察疫学(コホート研究、症例対照研究)、介入研究などの実例を紹介する。
- ② 臨床研究・治験に必要な医療統計学の理論と実際を講義する。
- ③ 臨床研究・治験を行う際に、留意すべき倫理的問題について解説する。
- ④ 地域医療計画の概要と、がんに関する医療計画の政策策定および実施計画について解説する。
- ⑤ 治験・臨床試験を計画・評価するために必要な知識を解説する。さらにがん治療に関する治験・臨床試験の特徴や問題点、新規試験の計画や実臨床への応用についても解説する。

2) 授業計画

5月20日(月)	(担当:河原)	がん地域医療計画
5月21日(火)	(担当:吉田)	倫理
5月22日(水)	(担当:富田)	統計
5月23日(木)	(担当:中山)	疫学
5月24日(金)	(担当:小池)	治験と臨床試験

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業科目との関連性

社会医学は臨床研究、Evidence-based medicine (EBM)の基盤であり、他科目と密接に関係している。

(3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートによって評価する

5) 教科書・参考書など (以下購入の必要はなし)

村好一著 基礎から学ぶ楽しい疫学 (医学書院)、

青山英康監修 今日の疫学(第2版)(医学書院)、

川村孝著 エビデンスをつくる (医学書院)、

J Last. A Dictionary of Epidemiology (4th ed). (Oxford University Press)

(日本疫学会 疫学辞典 第3版 日本公衆衛生協会)

6) ハンドアウトの有無

スライド資料を当日配布。

がんプロシラバス

種別：総合基礎

科目名：**がんの細胞生物学概論** (Biology of Cancer Development)

科目担当責任教員：

水谷 修紀 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 教授

科目担当教員：(講義順)

中釜 斉 国立がん研究センター研究所 所長
畑 裕 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
病態代謝解析学分野 教授
高木 正稔 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
発生発達病態学分野 講師
清水 重臣 東京医科歯科大学難治疾患研究所
病態細胞生物学分野 教授
寺岡 弘文 東京医科歯科大学 名誉教授
吉岡 研一 国立がん研究センター研究所
ゲノム安定性研究分野 主任研究員

授業予定日：平成25年5月27日(月) ～ 5月31日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ☐ 細胞形態から物質代謝・エネルギー代謝も含め、正常細胞との違いに基づいて、がん細胞の特性を理解する。
- ☐ がんで最も深刻な転移について、細胞接着や細胞極性の基本的知識を基盤にして理解する。
- ☐ 年長者のがんに比較して、その治療や予後が異なる遺伝性・弧発性の小児がんについて基本知識を習得し、その生物学的特徴を理解する。
- ☐ 細胞の運命に直結する、細胞死・細胞の寿命、細胞増殖・細胞周期、DNA損傷修復について、特にがんとの関係を重点に理解する。
- ☐ 細胞の形質転換に関する定説・新説、ならびに、がん幹細胞や関連するES細胞・iPS細胞について理解する。

(2) 授業の概要

生命の基本単位である細胞について、正常細胞とがん細胞の違いを重点に解説する。また、細胞の運命（増殖、分化、細胞死、形質転換、遺伝形質）に関して、細胞周期、DNA損傷応答・修復も含め、最新の知見にも言及する。

2) 授業計画

5月27日（月）	（担当：中釜）	がん細胞の特性 (Cancer Cell Properties)
5月28日（火）	（担当：畑）	がん転移とがん細胞の代謝 (Cancer metastasis and cancer cell metabolism)
5月29日（水）	（担当：水谷）	がんの遺伝性と非遺伝性 (Inheritability and non-inheritability of cancer)
	（担当：高木）	がんと細胞周期 (Cell cycle regulation and cancer development)
5月30日（木）	（担当：清水）	がん細胞と細胞死 (Cancer and cell death)
	（担当：寺岡）	がん幹細胞と多能性幹細胞 (Cancer stem cells and pluripotent stem cells)
5月31日（金）	（担当：寺岡）	DNA損傷修復とがん (DNA repair and cancer)
	（担当：吉岡）	細胞の形質転換とがん化の防御 (Cellular transformation and cancer prevention)

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特にはないが、細胞について基礎的なことは理解しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

がんの分子生物学概論と関連する。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポート、あるいは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし。

6) ハンドアウトの有無

有り。

がんプロシラバス

種別:総合発展

科目名:低侵襲がん治療Ⅰ(鏡視下手術)

(Minimal invasive treatment for cancer. I: Surgery)

科目担当責任教員:

三宅 智 本学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

吉木 尚之	本学本学大学院医歯学総合研究科 生殖機能協関学分野 講師
杉本 太郎	東京医科歯科大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科学分野 講師
梶原 直央	東京医科大学呼吸器外科 准教授
小林 宏寿	本学医学部附属病院 低侵襲医学研究センター 准教授
佐藤 隆宣	本学本学大学院医歯学総合研究科 腫瘍外科学分野 助教
伴 大輔	本学医学部附属病院 低侵襲医学研究センター 助教
沼尾 昇	本学医学部附属病院 低侵襲医学研究センター 講師
石橋 洋則	本学本学大学院医歯学総合研究科 呼吸器外科学分野 講師
小嶋 一幸	本学医学部附属病院 低侵襲医学研究センター 教授
河野 辰幸	本学本学大学院医歯学総合研究科 食道・一般外科学分野 教授

授業予定日 :平成 25 年 6 月 3 日(月) ～ 6 月 7 日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

各領域のがんに対する低侵襲性治療を理解する。

手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた、がんに対する集学的治療を理解する。

(2) 授業の概要

外科的手技に関しては低侵襲性手術の考え方や成績を示し、動画を含む映像を提示する。

2) 授業計画

6月3日(月)	(担当:吉木)	婦人科疾患における低侵襲治療
	(担当:杉本)	頭頸部疾患における低侵襲治療
6月4日(火)	(担当:梶原)	肺がんの内視鏡治療
	(担当:小林)	大腸がんに対する鏡視下手術
6月5日(水)	(担当:佐藤)	乳腺疾患における低侵襲治療
	(担当:伴)	肝胆膵疾患における低侵襲治療
6月6日(木)	(担当:沼尾)	腎泌尿器疾患における低侵襲治療
	(担当:石橋)	呼吸器疾患における低侵襲治療
6月7日(金)	(担当:小嶋)	胃がんに対する腹腔鏡下手術
	(担当:河野)	食道疾患における低侵襲治療

3) 授業に際し学生の留意点

- (ア) 授業への準備・予習 ;特に必要なし
- (イ) 他の授業科目との関連性 ;臓器別がんの診療など
- (ウ) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別：総合発展

科目名：低侵襲がん治療Ⅱ（集学治療）

(Minimal invasive treatment for cancer. II: Multidisciplinary treatment)

科目担当責任教員：

三浦 雅彦 本学大学院医歯学総合研究科 口腔放射線腫瘍学分野 教授

科目担当教員：（講義順）

藤内 祝	横浜市立大学大学院医学研究科顎顔面口腔機能制御学 教授
秋元 哲夫	国立がん研究センター東病院放射線治療科 部長
植竹 宏之	本学大学院医歯学総合研究科 応用腫瘍学講座 准教授
唐澤 克之	がん・感染症センター都立駒込病院放射線診療科 部長
高井 良尋	弘前大学大学院医学研究科放射線科学講座 教授
青木 昌彦	弘前大学大学院医学研究科放射線科学講座 准教授
鎌田 正	放射線医学総合研究所重粒子医科学センター センター長
林 敬二	本学大学院医歯学総合研究科 腫瘍放射線医学 助教
石川 敏昭	本学本学大学院医歯学総合研究科 応用腫瘍学講座 助教
吉村 亮一	昭和大学医学部放射線医学 講師

授業予定日：平成25年 6月10日(月)～6月14日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

各領域のがんに対する低侵襲性治療を理解する。

放射線治療の種類、適応、有効性を理解する。

手術、放射線治療、化学療法を組み合わせた、がんに対する集学的治療を理解する。

(2) 授業の概要

放射線治療は、臓器別、治療法別に解説する。特に小線源治療やIMRT、定位照射等の高精度放射線治療、陽子線、重粒子線による粒子線治療について、日本を代表する講師陣によって最先端の講義を行う。大腸がんに関しては、手術と化学療法の併用療法について、先進的な内容の講義を行う。

2) 授業計画

- 6月10日（月） （担当：藤内） 口腔がんの超選択動注療法
（担当：秋元） 陽子線治療
- 6月11日（火） （担当：植竹） 大腸癌における抗癌剤と手術の併用
（担当：唐澤） 定位照射
- 6月12日（水） （担当：高井） IMRT（弘前大学からの遠隔講義）
（担当：青木） 弘前大学における放射線治療（弘前大学からの遠隔講義）
- 6月13日（木） （担当：鎌田） 重粒子線治療
（担当：林） 前立腺がんの放射線治療
- 6月14日（金） （担当：石川） 大腸がん化学療法の低侵襲化；内服抗癌剤、外来化学療法
（担当：吉村） 子宮がんの放射線治療

3) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習 ；特に必要なし
- (2) 他の授業科目との関連性 ；臓器別がんの診療など
- (3) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別:総合発展

科目名:頭頸部がんの診療 (Head and Neck Cancer)

科目担当責任教員:

岸本 誠司	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 頭頸部外科学分野 教授
-------	------------------------------------

科目担当教員:(講義順)

岡崎 睦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 形成・再建外科学分野 教授
角 卓郎	東京医科歯科大学医歯学総合研究科 頭頸部外科学分野 講師
田原 信	国立がん研究センター東病院 頭頸部内科 科長
落合 淳志	国立がん研究センター東病院臨床開発センター 臨床腫瘍病理分野・分野長
杉本 太郎	東京医科歯科大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科学分野 講師
谷口 尚	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎顔面補綴学分野 教授
鵜澤 成一	東京医科歯科大学歯学部附属病院 回復系診療科 顎顔面外科外来(顎顔面外科学) 講師
澁谷 均	東京医科歯科大学 腫瘍放射線医学分野 非常勤講師
原田 浩之	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 顎口腔外科学分野 准教授

授業予定日:平成25年11月11日(月) ～ 11月15日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- 頭頸部がんにおける TNM 病期分類、病期の決定法、各病期の標準的治療、および合併症の管理について理解する。
- 頭頸部がんにおける放射線診断、核医学診断の適応について理解する。
- 頭頸部がんにおける集学的治療の重要性について理解する。
- 機能や形態を考慮した頭頸部がん治療法について理解する。

(2) 授業の概要

頭頸部領域がん(頭蓋底、聴器、鼻副鼻腔、口腔、顔面、上中下咽頭、喉頭、頸部食道、甲状腺、頸部など)における、機能や形態を考慮した再建を含む外科的療法、さらに放射線療法、化学療法、血管内治療を組み合わせた集学的治療について解説する。また、口腔、中咽頭がんに対する低線量率小線源治療の有用性と臨床の実際について講述し、その際に利用される補綴装置の意義や術後のエピテーゼの役割、さらに高齢者社会における頭頸部がん治療の問題点についても言及する。

2) 授業計画

11月11日(月)	(担当:岡崎)	頭頸部がん治療における再建外科～即時再建と二次再建～
	(担当:角)	頭頸部がんの総論と最近の話題
11月12日(火)	(担当:岸本)	頭蓋底・顔面深部の外科
	(担当:田原)	頭頸部がんに対する化学療法
11月13日(水)	(担当:落合)	頭頸部表在癌の病理組織像
	(担当:杉本)	咽喉頭早期癌に対する経口的手術
11月14日(木)	(担当:谷口)	頭頸部がん治療におけるエピテーゼの役割
	(担当:鶴澤)	口腔がんにおける遺伝子診断
11月15日(金)	(担当:澁谷)	口腔、中咽頭がんの小線源治療
	(担当:原田)	口腔がんの集学的治療

3)授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

最先端がん治療のトピックスは関連が深く、是非受講して頂きたい。

4)学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5)教科書・参考書など

特になし

6)ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別:総合発展

科目名:臓器別がんの診療 (Organ-specialized Cancer Therapy)

科目担当責任教員:

三宅 智 本学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員:(講義順)

澤村 千草	本学大学院医歯学総合研究科 整形外科学分野 助教
植竹 宏之	本学大学院医歯学総合研究科 応用腫瘍学講座 准教授
佐藤 隆宣	本学大学院医歯学総合研究科 腫瘍外科学分野 助教
尾崎 喜一	がん・感染症センター都立駒込病院 婦人科 部長
田中 真二	本学大学院医歯学総合研究科 肝胆膵・総合外科学分野 准教授
中島 康晃	本学大学院医歯学総合研究科 食道・一般外科学分野 准教授
新井 文子	本学大学院医歯学総合研究科 血液内科学分野 講師
坂下 博之	本学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野 助教
西澤 綾	本学大学院医歯学総合研究科 皮膚科学分野 講師
梶原 道子	本学医学部附属病院 輸血部 部長 講師
田村 郁	本学大学院医歯学総合研究科 脳神経機能外科学分野 助教
齊藤 一隆	本学大学院医歯学総合研究科 腎泌尿器科学分野 講師
井ノ口 幹人	本学大学院医歯学総合研究科 腫瘍外科学分野 講師
大久保 憲一	本学大学院医歯学総合研究科 呼吸器外科学分野 教授

授業予定日:平成25年11月18日(月) ~ 11月22日(金)

1時限目:18:30~19:15、2時限目:19:20~20:05、3時限目:20:10~20:55

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

臓器別のがんに対する標準的治療法ならびに集学的治療法の原理と実際について理解する。

(2) 授業の概要

臓器別のがんのそれぞれの分類、病態、診断法について概説する。外科的療法、化学療法、さらにそれらを組み合わせた集学的治療について説明し、それらの適応、目標、有用性についても述べる。また、最近の臨床研究やトピックスも交えて解説する。

2) 授業計画

11 月 18 日(月)	1 時限目: 澤村	骨軟部腫瘍
	2 時限目: 植竹	大腸がんの診療
	3 時限目: 佐藤	乳がんの診療
11 月 19 日(火)	1 時限目: 尾崎	婦人科がんの診療
	2 時限目: 田中	肝胆膵がんの診療
	3 時限目: 中島	食道がんの診療
11 月 20 日(水)	1 時限目: 新井	白血病・悪性リンパ腫の診療①
	2 時限目: 新井	白血病・悪性リンパ腫の診療②
	3 時限目: 坂下	肺がんの化学療法
11 月 21 日(木)	1 時限目: 西澤	皮膚がんの診療
	2 時限目: 梶原	小児がんの診療
	3 時限目: 田村	脳腫瘍の診療
11 月 22 日(金)	1 時限目: 齋藤	泌尿器がんの診療
	2 時限目: 井ノ口	胃がんの診療
	3 時限目: 大久保	肺がんの外科治療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) 他の授業科目との関連性

抗がん剤薬理学Ⅰ・Ⅱ、がん化学療法特論(基礎と臨床)は関連が深く是非受講して頂きたい。

4) 学生への評価方法

レポートによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

特になし

7) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：総合発展

科目名：臨床腫瘍学 I・II (Clinical oncology I・II)

科目担当責任教員：

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員：(講義順)

大岡真也 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 准教授

坂下博之 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 助教

授業予定月日： I：平成25年10月7日(月)～10月10日(木)
II：平成25年11月25日(月)～11月28日(木)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

腫瘍学全般について系統的に理解する。基礎研究、疫学、治療学、緩和医療学、社会医学、倫理・哲学的な側面も含め、総合的なアプローチで腫瘍学の知識を整理する。

(2) 授業の概要

腫瘍学の歴史をたどりながら、上記に挙げた種々の角度から腫瘍学全般を俯瞰することができるような授業を計画している。授業中の積極的なディスカッションも含めたインタラクティブな講義も行う。

2) 授業計画

10月7日(月) (担当:)
10月8日(火) (担当:)
10月9日(水) (担当:)
10月10日(木) (担当:)
11月25日(月) (担当:)
11月26日(火) (担当:)
11月27日(水) (担当:)
11月28日(木) (担当:)

講義は月曜日～木曜日。詳細については未定。決定次第追って連絡。

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) その他

腫瘍学を系統的に整理することを目的とする。

4) 教科書・参考書など

臨床腫瘍学 日本臨床腫瘍学会編 2012 年など

5) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

6) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

がんプロシラバス

種 別：総合発展

科目名：がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅰ

系名	10. 臨床疫学	科目名	1. 臨床研究・治験	
			Clinical Research・Clinical Trial	
科目担当責任教員	安原 真人(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬物動態学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 12 月 9, 10, 12, 13 日		連絡先	yasuhara.mpha@tmd.ac.jp

1. 科目担当教員

- 津谷 喜一郎 : 東京大学大学院薬学系研究科医薬政策学 教授
 高瀬 浩造 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授
 小池 竜司 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科薬害監視学 准教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・エビデンス・ベสต์・メディシン (E BM) と医療疫学の概念を理解する。
- ・E BMのための臨床研究デザインと統計学的背景を理解する。
- ・臨床研究・治験の現状と問題点を検討する

(2) 授業の概要

E BMと医療疫学の概念、データベースの利用方法について講述する。臨床研究における無作為コントロール試験、症例対照研究、コホート研究、メタアナリシスの各研究デザインについて解説する。臨床疫学研究における生物学的バイアスの概念を講述し、臨床研究・治験の具体例を紹介し、問題点を検討する。

3. 授業計画

- ・臨床研究のデザイン、プラセボ
- ・生物学的バイアスと交絡
- ・臨床研究・治験の管理と実践

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業科目との関連性

「10.2 健康情報データベースと統計分析」と関連する。

(3) その他

特になし。

5. 学生への評価方法

出席とレポートによる。

6. 教科書・参考書など

特になし。

7. ハンドアウトの有無

未定

8. 講義で使用するメディアの種別

P C + プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	12 月 9 日 (月)	臨床研究のデザイン (1)	津谷 喜一郎	tsutanik@gmail.com
2	12 月 10 日 (火)	生物学的バイアスと交絡	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	12 月 12 日 (木)	臨床研究のデザイン (2)	津谷 喜一郎	tsutanik@gmail.com
4	12 月 13 日 (金)	臨床研究・治験の管理と実践	小池 竜司	koike.rheu@tmd.ac.jp

がんプロシラバス

種 別：総合発展

科目名：がん臨床研究・エビデンス実践医療Ⅱ

系 名	10. 臨床疫学	科目名	2. 健康情報データベースと統計分析 Statistics and Health Care Database
科目担当責任教員	高瀬 浩造(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授)		
授業予定年月日	平成 25 年 12 月 16～19 日	連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

1. 科目担当教員

高瀬 浩造：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授
水嶋 春朔：横浜市立大学大学院情報システム予防医学部門 教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・医療管理・政策に必要な統計学の基本を理解する。
- ・臨床疫学に必要な記述統計の手法を説明できる。
- ・臨床推論における主観確率論を理解する。
- ・研究における質保証に係わる統計的手法について説明できる。
- ・行政の実施している各種衛生統計の意義を説明できる。
- ・最新の医療・健康情報を収集し、科学的に解釈することができる。

(2) 授業の概要

基本知識としての統計学的技法を説明した後、生物統計における2つの異なる潮流、すなわちピアソン型の質管理を重視した記述統計学とベイズ型の主観確率を重視した統計学について理解を深める。応用として医療政策の前提となる、診断、治療、医療の質の評価、医療の安全性、疫学、健康情報データベースにかかわる情報を収集して、的確に解釈し意思決定に反映させるための基礎知識と技術、統計法、公的統計の体系と整備について概説する。また、健康情報データベースによる根拠に基づいた健康政策のありかたについて議論する。

3. 授業計画

- ① 医学基本統計学
- ② 生物統計学におけるピアソン統計学とベイズ統計学
- ③ デジタルデータとアナログデータ
- ④ 衛生統計学と健康情報データベースに基づく政策決定

4. 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
基礎的な基本統計学の知識を前提としている。
- (2) 他の授業科目との関連性
すべての医療系分野、特に医療疫学と密接に関連する。「9.3 医学概論」の概念分析とも関連する。
- (3) その他
特になし。

5. 学生への評価方法

平常点および小課題への取り組みになどより総合的に評価する。

6. 教科書・参考書など

教科書：統計学の教科書は特に指定しないが、各自で準備すること。
参考書：上畑鉄之丞 監訳「根拠に基づく健康政策のすすめ方」（医学書院）2003 年

7. ハンドアウトの有無

有

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター、他

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	12 月 16 日(月)	根拠に基づく健康政策	水嶋 春朔	shunsaku@yokohama-cu.ac.jp
2	12 月 17 日(火)	基本統計学	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	12 月 18 日(水)	統計学的推論・検定	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	12 月 19 日(木)	統計学の応用	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

がんプロシラバス

種別：放射線基礎・放射線応用

授業開催場所：東京工業大学田町キャンパス(CIC)

科目名：	放射線基礎	1.放射線物理学・放射線技術学特論
		2.腫瘍放射線生物学特論
		3.腫瘍放射線診断・核医学特論
	放射線応用	4.腫瘍放射線治療学特論

科目担当責任教員：	1, 2. 三浦雅彦	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 口腔放射線腫瘍学分野 教授
	3. 大橋 勇	東京医科歯科大学医学部附属病院放射線部 准教授
	4. 澁谷 均	東京医科歯科大学 腫瘍放射線医学分野 非常勤講師

授業予定月日：

1. 平成25年 9月17日(火)～20日(金)、9月24日(火)～27日(金)
(上記期間内の5日間)
2. 平成25年 9月30日(月)～10月4日(金)
3. 平成25年10月 7日(月)～11日(金)
4. 平成25年10月15日(火)～18日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

腫瘍に対する放射線物理、放射線生物学の基本的知識を習得し、臨床応用の実際を理解する。

(2) 授業の概要

1. 技術としての放射線分野の基礎および応用について解説する。また、臨床における放射線防護についても解説する。
2. 放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
3. 放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの

適応と臨床応用の実際についても論じる。

4. 医療における放射線治療の意義とその応用範囲，線量測定・治療計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。

授業計画：講義時間 18:45～20:45

科 目 名	科目責任者	担当教員及び分担詳細科目				
		1 日 目	2 日 目	3 日 目	4 日 目	5 日 目
放射線物理学・放射線技術学特論	三浦雅彦	9 月 17-20 日、9 月 24-27 日 (左記期間内の 5 日間)				
		阿部慎司	阿部慎司	阿部慎司	木藤哲史	木藤哲史
腫瘍放射線生物学特論	三浦雅彦	9 月 30 日	10 月 1 日	10 月 2 日	10 月 3 日	10 月 4 日
		三浦雅彦	三浦雅彦	三浦雅彦	渡邊 裕	三浦雅彦
腫瘍放射線診断学・核医学特論	大橋 勇	10 月 7 日	10 月 8 日	10 月 9 日	10 月 10 日	10 月 11 日
		大橋 勇	大橋 勇	大橋 勇	鳥井原彰	鳥井原彰
腫瘍放射線治療学特論	澁谷 均	祝日	10 月 15 日	10 月 16 日	10 月 17 日	10 月 18 日
			澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均	澁谷 均

2) 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習

特になし

- (2) 他の授業科目との関連性

3) 学生への評価方法

試験によって評価する。

4) 教科書・参考書など

特になし

5) ハンドアウトの有無

特になし

6) 講義で使用するメディアの種別

PC + プロジェクター

がんプロシラバス

種別: 化学療法

科目名: **抗がん剤薬理学Ⅰ・抗がん剤薬理学Ⅱ**

(Pharmacology of Anticancer Drugs I、II)

科目担当責任教員:

安原 真人 東京医科歯科大学医学部附属病院薬剤部 教授

科目担当教員:(講義順)

谷川原 祐介	慶應義塾大学医学部臨床薬理学 教授
岡田 弘晃	東京薬科大学 名誉教授
玉井 郁巳	金沢大学医薬保健研究域薬学系 薬物動態学 教授
三木 義男	東京医科歯科大学難治疾患研究所 分子遺伝学分野 教授
小竹 良彦	エーザイ株式会社 オンコロジーPCU 主幹研究員
林 良雄	東京薬科大学薬学部薬品化学 教授
永田 将司	東京医科歯科大学医学部附属病院 薬剤部 准教授

授業予定日 : **Ⅰ 平成25年10月21日(月) ～ 10月25日(金)**

 : **Ⅱ 平成25年10月28日(月) ～ 11月1日(金)**

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・ 作用メカニズムに基づく抗がん剤の分類を理解し、抗体医薬や分子標的薬の具体例を学び、合理的な化学療法の設計法について考察する。
- ・ 抗がん剤の体内動態や作用に関わるトランスポーターについて学び、抗がん剤の臨床薬理を理解する。
- ・ 抗がん剤治療の最適化を目指したドラッグデリバリーシステムの概念と具体例を学ぶ。
- ・ 抗がん剤に対する感受性や副作用の有無を患者個別に予測するためのゲノム情報の活用につき学ぶ。
- ・ 新規抗がん剤の創製に向けたメディシナルケミストリーのアプローチを学ぶ。

(2) 授業の概要

アルキル化剤から分子標的治療薬まで、多様な抗がん剤の作用メカニズムを概観し、ヒト化抗体医薬や分子標的薬の開発と臨床応用の具体例を紹介する。抗がん剤の吸収・分布・代謝・排泄や腫瘍組織への移行過程における薬物トランスポーターの関わりやその変動因子について考察する。

有効性と安全性という観点から、PK/PD に基づく合理的な抗がん剤の投与設計や具体的な抗がん剤の調製における注意点につき講述する。抗がん剤の選択的な腫瘍組織への送達や薬物濃度の制御を可能とするドラッグデリバリーシステムの進歩について解説する。さらに、個々のがん患者に対して最適な化学療法を提供する、いわゆるテーラーメイド医療の実現に向けた、ファーマコゲノミックスの取り組みについて講述する。新規抗がん剤の創製に向けて、抗体医薬やメディシナルケミストリーのアプローチを紹介する。

2) 授業計画

10 月 21 日(月)	(担当:安原)	抗がん剤薬理学概説
10 月 22 日(火)	(担当:谷川原)	抗がん剤の臨床薬理学
10 月 23 日(水)	(担当:岡田)	抗がん剤のドラッグデリバリーシステム
10 月 25 日(金)	(担当:玉井)	抗がん剤のトランスポーター
10 月 28 日(月)	(担当:三木)	抗がん剤のファーマコゲノミックス
10 月 29 日(火)	(担当:小竹)	分子標的薬の開発
10 月 31 日(木)	(担当:林)	チューブリンを標的とする抗がん剤の創製
11 月 1 日(金)	(担当:永田)	抗がん剤の血中濃度モニタリング

3) 授業に際し学生の留意点

(ア) 授業への準備・予習

特になし

(イ) 他の授業科目との関連性

(ウ) その他

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

特になし

6) ハンドアウトの有無

有り

がんプロシラバス

種別：化学療法

科目名：がん化学療法特論（基礎と臨床）

(Advanced Topics in Anticancer Chemotherapy: Basic and Clinical Sciences)

注) この講義は東京薬科大学からの遠隔講義となります。

11月5日(火)(担当：山田)の講義のみ、東京医科歯科大学M&Dタワー11階大学院講義室3にて行う予定。

科目担当責任教員：

平野 俊彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬理学教室 教授

科目担当教員：(講義順)

山田 安彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬効解析学教室 教授

下枝 貞彦 東京薬科大学大学院薬学研究科 臨床薬剤学教室 准教授

杉浦 宗敏 東京薬科大学大学院薬学研究科 医薬品安全管理学教室 准教授

授業予定日：平成25年11月5日(火) ～ 11月8日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標：

がん化学療法の基礎と臨床について、その現状を理解させると共に、問題点や課題を克服するための対処法や、今後の研究に関する考え方を修得させる。

(2) 授業の概要：

がん化学療法の実際とその科学的基盤について概説する。講師陣は、いずれも薬学部出身の教授もしくは准教授で、薬剤師でもある。がん化学療法のチーム医療における薬剤師の役割について幅広い活動を紹介すると共に、がん化学療法の基盤となっている臨床薬理学も分かり易く解説する。

2) 授業計画

1 1月5日（火）（担当：山田）（東京医科歯科大学M&Dタワー大学院講義室3）
「がん化学療法における副作用とその対処法」

1 1月6日（水）（担当：下枝）
「がん専門薬剤師が関わるチーム医療」

1 1月7日（木）（担当：杉浦）
「がん化学療法と緩和医療」

1 1月8日（金）（担当：平野）
「がん化学療法の臨床薬理学と時間薬理」

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習：

総合基礎および抗がん剤薬理学概論Ⅰ、Ⅱで習った内容について、ざっとおさらいをしておいてくこと。

(2) 他の授業科目との関連性：

総合基礎、抗がん剤薬理学概論Ⅰ、Ⅱ

(3) その他

1 1月5日（火）（担当：山田）の講義は、東京医科歯科大学にて行う予定。

4) 学生への評価方法：

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など：

講義によってプリント等を配布する場合がある。筆記用具のみ持参。

6) ハンドアウトの有無：

講義によってプリント等を配布する場合がある。

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和医療学概論 (Palliative Medicine: Outline)

科目担当責任教員：

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

松島 英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野 教授

科目担当教員：(講義順)

鈴木 莊一 鈴木内科医院 院長

秋山 修 日本赤十字社医療センター緩和ケア科 部長

小池 眞規子 目白大学人間学部心理カウンセリング学科 教授

松下 年子 横浜市立大学医学研究科・医学部看護学科 教授

授業予定日：平成25年6月17日(月)～ 6月21日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

わが国の緩和医療は当初、治癒を目的とした医療に対して反応しなくなった、主にがん患者に行われる疼痛緩和を中心としたいわばみとりの医療であったが、その後、治療の早期から適応されるようになり対象が広がった。今後実施される多方面からアプローチする講義の理解を深める準備として全体像を概観する。また、患者の全体像を評価するQOLについての知識と、こうした患者やその家族に接する際のコミュニケーション・スキルについて習得できるようにすることも目標である。

(2) 授業の概要

緩和医療について、その理念、目的、意義、および実態について概観する。また、ホスピスや緩和ケア病棟での緩和ケア、在宅での緩和ケアについて、実際の臨床現場に即して解説する。さらに、緩和医療の際の最も基本である、全人的な痛みを評価するためのQOL尺度の説明や応用、および患者やその家族とのコミュニケーションについて、実例をまじえて講義を行う。

2) 授業計画

6月17日(月)	(担当:三宅)	緩和医療学概論
6月18日(火)	(担当:鈴木)	在宅緩和ケア
6月19日(水)	(担当:秋山)	① 当院における緩和ケアの歩み ② ACP－患者さんのこれからについて相談する－
6月20日(木)	(担当:小池)	緩和ケアにおけるコミュニケーション
6月21日(金)	(担当:松下)	緩和ケアにおける QOL の評価

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine (Fourth Edition):

Geoffrey WC Hanks, Nathan I. Cherny, ほか編 2010

在宅医療・介護基本手技マニュアル改訂第2版 谷亀光則編 永井書店 2005

在宅での看取りと緩和ケア 佐藤 智、鈴木荘一、村松静子編 中央法規 2008

ひとはなぜ、人の死を看とるのか 鈴木荘一 著 人間と歴史社

臨床のための QOL 評価ハンドブック 池上直己ほか編 医学書院 2001

臨床面接技法－患者との出会いの技

Billings JA, Stoeckle JD 日野原重明ほか訳 医学書院 2001

メディカル・インタビュー マニュアル－医師の本領を生かすコミュニケーション技法

福井次矢 インターメディカ (第3版) 2002

患者と医師のコミュニケーション

Debra L, Hall R, Hall JA 石川ひろの他訳 篠原出版新社 2007

がん医療におけるコミュニケーション・スキル－悪い知らせをどう伝えるか

内富庸介 藤森麻衣子 医学書院 2007

SPIKES-BC 乳がん診療におけるコミュニケーション・スキルを学ぶ

Team SPIKES-BC (編纂) 時報 2007

Buckman R 恒藤暁ほか訳 診断と治療社 2000

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：精神腫瘍学特論 (Psycho-oncology: Introduction)

科目担当責任教員：

松島 英介 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
心療・緩和医療学分野 教授

科目担当教員：(講義順)

清水 研 国立がん研究センター中央病院精神腫瘍科 科長

野口 海 メンタル・コンシェルジュ 代表
慶應義塾大学大学院政策メディア研究科 准教授

小川 朝生 国立がん研究センター東病院
臨床開発センター精神腫瘍学開発分野 ユニット長
緩和医療科・精神腫瘍科 科長

大西 秀樹 埼玉医科大学国際医療センター精神腫瘍科 教授

授業予定日：平成25年6月24日(月) ～ 6月28日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者やその家族のところに目を向け、身体的側面だけではなく精神的側面についても把握できるようにする。そのためには、がん患者の誰もが抱えるストレスから、治療が必要な精神症状まで、幅広く理解しておくことが必要である。これらをもとに、個々のがん患者に対する対応および、精神症状に対する診断や治療ができるようにする。また、患者家族や遺族の精神状態の把握や心理的介入、治療ができるようにする。

(2) 授業の概要

精神腫瘍学の意義に始まり、がん患者のストレス、コーピング・スタイル、精神症状でもよく認められる不安・抑うつ診断と治療、絶望感や自殺の問題とその対応、せん妄の診断とその対策、がん患者の家族に対する理解や対応、遺族のケア、終末期の患者のスピリチュアリティや尊厳の問題など、症例を上げながら解説し、患者を包括的、全人的に診療していく姿勢を身につけていただく。

2) 授業計画

6月24日(月)	(担当: 松島)	精神腫瘍学入門
6月25日(火)	(担当: 清水)	抑うつ・不安および自殺とその対応
6月26日(水)	(担当: 野口)	終末期の精神医学的問題
6月27日(木)	(担当: 小川)	せん妄とその対策
6月28日(金)	(担当: 大西)	家族と遺族のケア

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習 : 特になし

(2) 他の授業科目との関連性

前の週に開講される「緩和医療概論」は関連が深いため、是非受講していただきたい。

(3) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 学生への評価方法

出席状況とレポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

日本サイコオンコロジー学会ホームページにあるE-ラーニング

(<http://www.jpos-society.org/elearning/>)

明智龍男著: がんところのケア. NHK ブックス 975, 2003 年

内富庸介監訳: 緩和医療における精神医学ハンドブック. 星和書店, 東京, 2001 年

Handbook of Psychooncology (eds. Holland JC, Rowland JH), Oxford

University Press, New York, 1990. (河野博臣, 濃沼信夫, 神代尚芳監訳: サイコオンコロジー第1版.

メディアサイエンス社, 東京, 1993 年)

Psycho-Oncology 2nd edition (eds. Holland JC et al), Oxford University Press, New York, 2010.

Handbook of Psychiatry in Palliative Medicine 2nd edition. (eds. Chochinov HM, Breitbart W), Oxford

University Press, New York, 2009.

大西秀樹著: がん患者の心を救う. 河出書房新社, 2008 年

日本サイコオンコロジー学会教育委員会監修: 緩和ケアチームのための精神腫瘍学入門.

医薬ジャーナル社, 2009 年

松島英介編著: がん患者のこころ (現代のエスプリ 517). ぎょうせい, 2010 年

大西秀樹編著: サイコオンコロジー (専門医のための精神科臨床リュミエール 24). 中山書店, 2010 年

清水 研編著: がん医療に携わるすべての医師のための心のケアガイド. 真興交易(株)医書出版部, 2011 年

岡村 仁著: がんて不安なあなたへ. メディカルトリビューン, 2011 年

内富庸介, 小川朝生編集: 精神腫瘍学. 医学書院, 2011 年

内富庸介, 大西秀樹, 小川朝生編著: サイコオンコロジーを学びたいあなたへ. 文光堂, 2011 年

6) ハンドアウトの有無 : できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和基礎

科目名：緩和ケアにおける身体症状へのアプローチ

(Approach to Physical Symptoms in Palliative Care)

科目担当責任教員：

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員：（講義順）

山田 陽介 東京都保健医療公社豊島病院 緩和ケア内科 医長
吉澤 明孝 要町病院 副院長
 要町ホームケアクリニック 院長
田中 桂子 東京都立駒込病院 緩和ケア科 医長
堀 夏樹 NTT東日本関東病院 緩和ケア科 部長

授業予定日：平成25年7月1日(月) ～ 7月5日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

身体症状に対する緩和治療の意義、がん性疼痛、呼吸困難、倦怠感、浮腫等々多彩ながんに伴う症状の特徴とその対応を解説。さらに外来、一般病棟（緩和ケアチーム）、緩和ケア病棟、在宅医療の現場における身体症状への対応について具体的な事例を提示しながら解説し、疾患の全経過に関与する緩和医療のありかたについて理解を深められるよう講義を行う。さらにすべての診療の基盤となる患者への援助的コミュニケーションについても講義を行う。

2) 授業計画

7月1日(月)	(担当：山田)	緩和ケア病棟における身体症状へのアプローチ
7月2日(火)	(担当：吉澤)	在宅医療における身体症状へのアプローチ
7月3日(水)	(担当：田中)	がん患者の呼吸器症状
7月4日(木)	(担当：堀)	がん患者の泌尿器症状
7月5日(金)	(担当：三宅)	がん患者の消化器症状

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

緩和医療概論、精神腫瘍学特論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook):

Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009

(武田文和/訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント

第2版 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳

金原出版 1996年

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和応用

科目名：症状マネジメント（基本編）（Symptom Management (Basic)）

科目担当責任教員：

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員：（講義順）

小澤 美和 聖路加国際病院 小児科 医長
林 章敏 聖路加国際病院 緩和ケア科 部長
下山 直人 東京慈恵会医科大学 緩和医療部 教授
高野 利実 国家公務員共済組合連合会虎の門病院 臨床腫瘍科 部長
小澤 竹俊 めぐみ在宅クリニック 院長

授業予定日：平成25年7月8日（月） ～ 7月12日（金）

1) 授業の目標・概要

（1）授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

（2）授業の概要

体性痛、内臓痛、神経因性疼痛などの疼痛についての概論にはじまり、各種がんに伴う疼痛・身体症状の実際とその対応を解説。疼痛を初めとする症状コントロールの実践的な基本知識を習得する。

2) 授業計画

7月8日(月)	(担当：小澤美和)	小児の緩和医療
7月9日(火)	(担当：林)	鎮静・臨死期の諸問題
7月10日(水)	(担当：下山)	疼痛概論 (がんの痛みの機序と分類、それに基づく治療の基本)
7月11日(木)	(担当：高野)	乳癌の緩和医療
7月12日(金)	(担当：小澤竹俊)	がん患者への援助的コミュニケーション

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

緩和医療における身体症状論との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook) : Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009

(武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳
金原出版 1996年

日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにあるE-ラーニング

(<http://www.hospat.org/>)

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別:緩和応用

科目名: **症状マネジメント(応用編)** (Symptom Management (Advanced))

科目担当責任教員:

三宅 智 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科
臨床腫瘍学分野 教授

科目担当教員: (講義順)

市川 雄二 東京都保健医療公社豊島病院 歯科口腔外科 部長
的場 元弘 国立がん研究センター中央病院 緩和医療科 科長
永井 英明 国立病院機構東京病院 外来診療部長

授業予定日: **平成25年7月16日(火) ～ 7月19日(金)**

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

がん患者に関わる医療者にとって、疼痛を初めとする様々な身体症状についての知識の習得は最も基本的なものであると同時に必須である。がん患者の訴える多彩な症状について幅広く理解し、適切な原因診断、治療ができるようにすることが目標である。

(2) 授業の概要

一般病棟、在宅医療における疼痛緩和の実際についての解説に始まり、鎮静、臨死期の身体症状をはじめとする諸問題に対して、事例紹介を交えながらより実践的な知識を習得することを目指す。また、現在の政策なども含めて緩和医療の現状について概説する。さらに小児を対象とした緩和医療、AIDS 患者を対象とした緩和医療についても講義を行う。

2) 授業計画

- 7 月 16 日(火) (担当：市川) 歯科口腔外科領域における緩和医療
7 月 17 日(水) (担当：的場) がん専門病院における緩和医療・身体症状へのアプローチ
7 月 18 日(木) (担当：三宅) 緩和ケアを取り巻く現状
7 月 19 日(金) (担当：永井) AIDS 患者の緩和医療

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業との関連性

緩和医療における身体症状、疼痛マネジメント(基本編)との関連性が深いので是非受講して頂きたい。

(3) その他

すぐに実践できる知識を身につけることを目指している。

4) 学生への評価方法

出席状況、レポートまたは小テストによって評価する。

5) 教科書・参考書など

Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook):

Geoffrey Hanks, 2009

Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009

(武田文和訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010 年)

がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳

金原出版 1996 年

日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング

(<http://www.hospat.org/>)

6) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

がんプロシラバス

種 別：緩和応用

科目名：緩和ケア実践 (Practice of Palliative Care)

科目担当責任教員：

三宅 智	東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科 臨床腫瘍学分野 教授
------	-----------------------------------

科目担当教員：(講義順)

樋口 比登実	昭和大学病院 緩和医療科 教授
保坂 隆	聖路加国際病院精神腫瘍科 医長
荻原 隆二	介護老人保健施設 ケアなかめぐろ 施設長
行田 泰明	要町病院 緩和ケア部 部長兼麻酔科部長

授業予定月日：平成25年7月22日(月) ～ 7月26日(金)

1) 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

これまでに学習した内容の実践編として、さまざまな場面における緩和ケアの実践を学ぶ。

(2) 授業の概要

緩和ケアの提供場所として、大学病院、一般病院、在宅医療、施設の立場における実践について学習し理解を深める。

2) 授業計画

7月22日(月)	(担当: 樋口)	大学病院における緩和ケアチームによる 身体症状へのアプローチ
7月23日(火)	(担当: 三宅)	緩和ケアにおけるこれからの課題
7月24日(水)	(担当: 保坂)	サイコオンコロジーと精神療法
7月25日(木)	(担当: 荻原)	高齢者の看取り
7月26日(金)	(担当: 行田)	在宅における症状コントロール (症例提示を交えながら)

3) 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし

(2) その他

活発な質疑を期待しているので、積極的な姿勢で受講していただきたい。

4) 教科書・参考書など

- ・ Oxford Textbook Of Palliative Medicine 4th edition (Oxford Textbook):
Geoffrey Hanks, 2009
- ・ Symptom Management in Advanced Cancer: Robert G. Twycross, Andrew Wilcock 2009
(武田文和/訳 トワイクロス先生のがん患者の症状マネジメント 医学書院 2010年)
- ・ がんの痛みからの解放—WHO 方式がん疼痛治療法 世界保健機関/編 武田文和/訳
金原出版 1996年
- ・ 日本ホスピス緩和ケア研究財団のホームページにある E-ラーニング
(<http://www.hospat.org/>)

5) ハンドアウトの有無

できるだけ用意する。

6) 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

メデイカルスタッフ養成コース

種別 : 放射線基礎、放射線応用、医歯工学基礎、医歯工学医学物理
 科目 : 下記の表を参照のこと
 目次 : 下記の表を参照のこと
 担 任 者 : 下記の表を参照のこと
 授 業 予 定 月 日 : 平成25年8月26日～11月1日
 講 義 開 催 場 所 : 田町キャンパスCICで開講
 備 考 : 1 東京医科歯科大学医歯学総合研究科及び東京工業大学医歯工学特別コースの共同開催となる。
 2 がん専門医師養成コースの4科目はコメディカルコースと合同開催科目となる。

科目名	単位	責任者	講義担当予定者	講義概要
医歯工学概論	1	(未定)	高瀬浩造(医歯大) 田中順三(理工)	医歯工学に関わる基礎的事項を説明し、医療を支える医学の特殊性、医療における診断の概要、治療方法の概要ならびに医療における倫理面の問題と対応方法について医学・工学の両面より論じる。
人体機能学	1	高瀬	平尾見三 三浦宏之 東條尚子 宗田大(医歯大)	人体の機能に関する解剖・生理・生化学的基礎を、循環生理、呼吸生理、運動生理顎口腔生理の立場から、臨床面に重点を置きながら解説する。
人間安全工学	1	伊能	中村聡(生命) 宇治橋貞幸(情報理工) 八木透(情報理工) 林崎規託(原子炉)	機械、化学、電気など各工学分野の立場から生体に対する安全性や、人間工学に対する考え方を論じる。
放射線物理学・放射線技術学特論	1	高瀬/三浦	阿部慎司(茨城県医療大) 木藤哲史(都立駒込病院)	医療における放射線技術の概要を述べるとともに、その根拠となる物理学的な背景について概説する。また、医療放射線技術における基盤である放射線防護の基本について、臨床現場での対応を含め、解説する。
医用放射線診断学・核医学/腫瘍放射線診断学・核医学特論	1	高瀬/大橋	大橋勇(医歯大) 鳥井原彰(医歯大)	放射線科領域における磁気・超音波を含めた診断技法の原理および概要を講じるとともに、それぞれの適応と臨床応用の実際についても論じる。
医用放射線生物学/腫瘍放射線生物学特論	1	高瀬/三浦	三浦雅彦(医歯大) 渡邊裕(医歯大)	放射線が生物に対して与える影響について、分子レベル、細胞レベル、個体レベル、および集団レベルで論じる。また、病態・疾患との関連について講じる。
医用画像情報学(医歯工学)	2	小尾	小尾高史(総理工) 大山永昭・山口雅浩(像情報)	放射線画像やカラー画像機器における画像再構成技術、画像診断支援技術と、画像保存や通信などの画像管理におけるセキュリティ技術について講義する。
医療機器開発概論	2	(未定)	梶川浩太郎(総理工) 吉川史郎(理工) 瀬尾育式(駒澤大) 井出勝久 (医薬品医療機器総合機構) 赤池敏広(生命) 大森健一(小林メ'カル) 依田潔(エレクトラ) 斉藤吉毅(オリンパス) 澄田政哉 (旭化成くられメディカル)	医療機器の開発の現場で遭遇する諸問題(含GLP,GCP,GMP)について、各実務担当者が講じる。
放射線治療学/腫瘍放射線治療学特論	1	高瀬/渋谷	渋谷均(医歯大)	医療における放射線治療の意義とその応用範囲、線量測定・治療計画の方法論、他の治療法との関連および副作用・安全管理について論じる。
放射線治療物理学	2	河野	河野俊之(総理工) 金井達明(群馬大学) 松藤成弘・水野秀之・兼松伸幸 (放医研)	医療用放射線の発生と計測法、照射装置の設計、線量測定の理論、線質測定の理論、小線源の線量測定、照射技術と線量計算(治療計画)、治療周辺装置、について詳しく論じる。
核医学物理学	1	河野	山谷泰賀(放医研)	放射性薬剤の生産(製造、核種)、吸収線量評価、試料測定技術、体外測定技術について論じる。
放射線医療実習	1	河野	水野秀之・養原伸一・兼松伸幸 (放医研)	Co照射装置による電離箱の絶対線量校正、水中線量分布の測定、小線源の線量測定、ガラス線量計による線量測定、などの線量測定技術の実習、および治療計画装置の実習。
医用放射線発生装置	1	小栗	林崎規託・小栗慶之・小原徹 (原子炉)	放射線発生装置としての粒子加速器、原子炉システムについて、その動作原理と診断・治療・アイソトープ製造等、医療分野への応用例について解説する。
人体解剖病態学	1	高瀬	山田哲夫・遠藤太嘉志・秋田恵一(医歯大)	医工学に必要な形態学を包括的に教授しながら、医学の基礎である肉眼解剖学および病理学を、人体にかかわるマクロからミクロの構造として理解することを目的とする。特に、構造にかかわる正常機能と機能異常について解説する。

がん医療事務職員養成コース

系 名	1. 医療政策	科目名	4. 医療保険論	
			Health Insurance Policy I	
科目担当責任教員	佐藤 主光(一橋大学大学院経済学研究科 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 4 月 16, 23 日, 5 月 7 日, 6 月 4 日	連絡先	satom@econ.hit-u.ac.jp	

【科目コード：4014】

1. 科目担当教員

佐藤 主光：一橋大学大学院経済学研究科 教授
中泉 真樹：國學院大學経済学部 教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

高齢化社会を迎えるわが国の医療保険財政の現状や課題について経済学の観点からどのように説明、評価、及び政策提言を行うのかを理解してもらう。

(2) 授業の概要

高齢化の進展とともにわが国の医療費・介護費用は増加の一途を辿っている。こちらの費用の多くは公的な医療保険、介護保険によって賄われているが、今後、こうした公的保険制度が破綻することなく国民に保険サービスを提供し続けられるのかどうかについては不安視する向きもある。人間は一人一人が生きていくなかで様々なリスクに直面する。例えば、車を運転して事故を引き起こすリスクであるが、これには自動車保険があり民間で供給されている。一方、病気になるリスクや長生きして貯蓄が底をついてしまうリスクに対しては民間の保険もあるが、社会保障が重要な役割を担っており、人々は給与の一部以上も公的保険に支払っている。この講義では少子高齢化社会を迎えるわが国の医療保険の役割と課題について考える。

3. 授業計画

下記日程欄を参照のこと。

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特になし。

(2) 他の授業科目との関連性

「1.5 医療保険制度改革論」と内容的には連続した科目であるから、引き続き履修することが望ましい。
あわせて他の医療経済関連科目である「1.7 医療産業論」、「1.8 医療経済論」を履修すると一層理解が深まる。

5. 学生への評価方法

6月4日に行う期末試験の成績による。

6. 教科書・参考書など

テキストは使用しない。

7. ハンドアウトの有無

毎回、講義資料を配布する予定である。ホームページより資料を各自プリントアウトしていただく場合は事前に連絡する。

8. 講義で使用するメディアの種類

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	4月16日(火)	わが国の医療保険の現状と課題	佐藤 主光	satom@econ.hit-u.ac.jp
2	4月23日(火)	保険の経済理論Ⅰ： 不確実性と保険(リスク回避)に関する経済学の初歩(事後的な)モラルハザードのもとでの保険、分配の公正と社会保険	中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp
3	5月7日(火)	保険の経済理論Ⅱ： 診療報酬制度の経済分析、逆選択とリスク調整	中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp
4	6月4日(火)	試験ならびにディスカッション	佐藤 主光 田近 栄治 中泉 真樹	satom@econ.hit-u.ac.jp

系 名	1. 医療政策	科目名	6. 医療計画制度	
			Health Care Plan	
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 5 月 20, 22～24 日		連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：4016】

1. 科目担当教員

河原 和夫 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
 近藤 太郎 : 近藤医院 院長、東京都医師会 副会長
 櫃本 真事 : 愛媛大学医学部附属病院 医療福祉支援センター センター長

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 医療計画制度の沿革、特色、問題点を理解する。
- ② 国、都道府県、住民、関係者・関係団体の機能や役割を理解する。
- ③ 医療計画制度を策定、遂行する上で必要なデータ、体制等を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。

(2) 授業の概要

過去の医療計画制度の問題点と成果を理解するとともに、近年厚生労働省から公表された医療計画の見直しに関する報告書をもとに、これからの医療計画制度の理念、目的、評価指標、実施方法、受益者としての住民の役割、医療提供者の役割などを理解する。また、現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、今後のあるべき医療計画制度を論じる能力を身につける。

3. 授業計画

まず、医療計画制度の沿革と必要性、問題点を過去の医療計画をもとに理解する。そして、医療計画制度の理念、目的、目標、計画策定過程、執行体制、評価、住民参加等の項目に関する分析を国外の同様の計画とも対比しながら行いながら理解を深め、将来の最適な医療計画制度に関わる政策像が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

現在、医療計画の見直しの委員会が開かれているので、厚生労働省のホームページから資料を入手し、熟読する。

(2) 他の授業科目との関連性

「1.1 医療提供政策論」「1.4 医療保険論」「9.3 医学概論」「2.4 医療機能評価」と関連する。

(3) その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mail での問い合わせには応じない。

5. 学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は100点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

6. 教科書・参考書など

教科書：特に指定しない

参考書：① 郡司篤晃「保健医療計画ハンドブック」（第一法規出版） ※ただし、絶版のため図書館等で閲覧すること

② 足立幸男／森脇俊雅 編「公共政策学」（ミネルヴァ書房）

③ Edith Stokey and Richard Zeckhauser「政策分析入門」（勁草書房）

④ 西谷剛「実定行政計画法 プランニングと法」（有斐閣）

⑤ 厚生労働省「医療計画の見直しに関する報告書」平成17年

⑥ 厚生労働省ホームページ「医療計画検討会」

その他必要に応じて指示する。

7. ハンドアウトの有無

予定している

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	5月20日(月)	医療計画制度総論	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	5月22日(水)	医療提供者から見た医療計画	近藤 太郎	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	5月23日(木)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	5月24日(金)	福祉制度等他制度との関係	櫃本 真事	kk.hcm@tmd.ac.jp

系 名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	3. 医療のTQM	
			Total Quality Management in Health Care	
科目担当責任教員	高瀬 浩造(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 11 月 25～28 日		連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：4023】

1. 科目担当教員

高瀬 浩造 : 東京医科歯科大学大学院研究開発学分野 教授
飯塚 悦功 : 東京大学 名誉教授
小林 美亜 : 千葉大学看護学研究科 准教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 医療の質の要素について理解を深める。
- ② 医療の質保証の方法論について検討する。
- ③ 日本における医療の質保証の現状について確認する。
- ④ 今後の医療におけるTQMの活動について議論する。

(2) 授業の概要

日本においても医療の質についての議論が行われるようになってきているが、社会が納得できるような意味での質保証は未だ十分には行われていない。ここでは、医療における質保証の基本的な方法論について習得し、またそれを実践する上での問題点について検討する。

3. 授業計画

- ① 医療の水準・質の定義
- ② 医療におけるTQMの歴史
- ③ 医療におけるTQMの概要
- ④ 医療におけるTQM活動の実際
- ⑤ 医療の質マネジメント
- ⑥ 医療の質管理におけるクリニカルパス

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

教科書および参考書などに目を通しておくこと。また、医療機関におけるTQM活動について情報収集しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

系2の「医療の質の確保とリスク管理」全般との関連も深い、系10の「臨床研究・治験」との関連もある。

(3) その他

医療管理の中核をなす科目であるため、十分に習得すること。

5. 学生への評価方法

出席およびレポート。

6. 教科書・参考書など

教科書：

- ・上原、黒田、飯塚、棟近、小柳津「医療の質マネジメント～医療機関におけるISO 9001の活用～」(日本規格協会) 2003 年
- ・飯塚、棟近、上原「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO 導入ガイド」(日本規格協会) 2006 年

参考書：

- ・高瀬、阿部 編「エビデンスに基づくクリニカルパス～これからの医療記録とヴァリアンス分析～」(医学書院) 2000 年
 - ・飯田修平「医療における総合的質経営」(日科技連) 2003 年
 - ・飯田修平、飯塚悦功、棟近雅彦 監修「医療の質用語事典」(日本規格協会) 2005 年
 - ・飯塚悦功、棟近雅彦、上原鳴夫監修「医療の質マネジメントシステム～医療機関必携 質向上につながるISO 導入ガイド～」(日本規格協会) 2006 年
 - ・飯塚悦功、水流聡子「医療品質経営」(医療企画) 2010 年
- その他必要に応じて指示する。

7. ハンドアウトの有無

有。

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	11 月 25 日(月)	医療の質マネジメント	飯塚 悦功	iizukay@tqm.t.u-tokyo.ac.jp
2	11 月 26 日(火)	医療のTQM 概論	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	11 月 27 日(水)	医療のTQM 実践	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	11 月 28 日(木)	クリニカルパス	小林 美亜	miak@mti.biglobe.ne.jp

系 名	2. 医療の質確保とリスク管理	科目名	4. 医療機能評価	
			Evaluation of Quality and Reliability of Health Care System	
科目担当責任教員	河原 和夫(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 6 月 17～20 日		連絡先	kk.hcm@tmd.ac.jp

【科目コード：4024】

1. 科目担当教員

河原 和夫：東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科政策科学分野 教授
河北 博文：社会医療法人 河北医療財団 理事長
信友 浩一：九州大学名誉教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 医療機関が患者・家族、地域住民及び関係者から求められている役割や使命を理解する。
- ② 各種医療関連データから病院機能評価にふさわしい指標や評価の仕組み、方法ならびに誰が何のために評価するのかを理解する。
- ③ 病院機能評価が始まった歴史的経緯および現状、それらの問題点を理解する。
- ④ 過去あるいは実際に実施されている政策、実施が検討されている政策の分析を行い、問題点ならびに改善のための政策手段を理解する。
- ⑤ 医療機関および医療人の役割の理解を通じて医療システム全体を評価できる資質を養う。

(2) 授業の概要

病院機能評価に関わる理念、目的、指標、方法、受益者、関係者の役割などを理解するために現在までの成果や問題点、データを分析・理解する能力を養うとともに、実施されてきた政策の特徴ならびに問題点を明らかにし、現代のわが国の実情に最も適した病院機能評価のあり方を論じる能力を身につける。患者の視点から医療を捉えることにも心がける。

3. 授業計画

医療機能評価機構などで実施されている病院機能評価の実態、評価に関連する統計資料をもとにわが国の病院機能評価の現状と問題点を理解する。特に、誰のために何を目的とした評価なのか、患者・家族の立場、医療関係者ならびにその他の関係者・関係団体の立場からも問題点や必要性を指摘できる能力を養い、理解を深めていく。そして、将来の最適な病院機能評価のあり方が提言できる能力の育成を図っていく。なお、授業への参加状況を重視するので積極的な参加が望まれる。

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

日本医療機能評価機構、厚生労働省、研究報告等で医療機能評価の概要、関係者の取り組み、問題点など現在の状況を調べておく。

(2) 他の授業科目との関連性

「1. 1 医療提供政策論」「2. 2 医療機関リスク管理」「2. 3 医療のTQM」などMMAの中の多くの科目と関連する。

(3) その他

問い合わせは電話、あるいは訪問のみ受ける。e-mailでの問い合わせには応じない。

5. 学生への評価方法

原則として出席および討議への参加状況で評価する（配点は100点）。問題を的確に把握し、解決方法の現実性・論理性・科学性など多様な角度から総合的に評価する。必要に応じてレポートを課す場合もある。

6. 教科書・参考書など

教科書：特に指定しない。

参考書：日本医師会・厚生省健康政策局指導課「病院機能評価マニュアル」（金原出版）

Restructuring Hospital Quality Assurance: The New Guide for Health Care Providers Jean Gayton Carroll

参考サイト：

(財)日本医療機能評価機構ホームページ「<http://jcqhc.or.jp/html/index.htm>」

JCAHO (Joint Commission on Accreditation of Healthcare Organizations) ホームページ「<http://www.jcaho.org/>」

AHRQ (Agency for Healthcare Research and Quality) ホームページ「<http://www.ahrq.gov/>」

その他必要に応じて指示する。

7. ハンドアウトの有無

配布を予定している。

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	6月17日(月)	医療機関および医療人の役割とその評価	信友 浩一	kk.hcm@tmd.ac.jp
2	6月18日(火)	医療機能評価概説	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
3	6月19日(水)	総合討議	河原 和夫	kk.hcm@tmd.ac.jp
4	6月20日(木)	日本医療機能評価機構の活動	河北 博文	kk.hcm@tmd.ac.jp

系 名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	1. 医療制度と法	
			Health Care System and Law	
科目担当責任教員	磯部 哲(慶應義塾大学法科大学院 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 6 月 24～27 日		連絡先	teisobe@sonata.plala.or.jp

【科目コード：4031】

1. 科目担当教員

磯部 哲 : 慶應義塾大学法科大学院 教授 (行政法)
松下一章 : 国立精神・神経医療研究センター (医事法)

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ・医療関連法規の概観
- ・わが国の医療制度の根底にある基本的な法理念の理解等

(2) 授業の概要

憲法を頂点とするわが国の法体系を概観したのちに、医療スタッフ、医療提供体制、医療情報等に関する法と制度、救急医療、感染症医療、精神科医療等に関する具体的な諸問題を扱うこととなる。詳細は授業計画（予定）の項を参照のこと。
上記（1）を目標とするこの授業では、細かい条文の解説などはさておいて、「健康権の概念」、「自己決定の原理」、「医師の裁量」、「プロフェッションの責任」などの基本的な論点を、法律学の立場から整理検討することとした。
本授業への参加を通じて、「法的なものの考え方」の特徴を理解してもらえようにつとめたい。

3. 授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である。(受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある)

- ① 法律（学）・医療関連法規の体系概観、医療・法の交錯の諸相
- ② 医師の行為に関する法と制度（医師法、保助看法等の資格と業務の規制法）
- ③ 医療提供体制に関する法と制度（医療法を中心に）
- ④ 医療情報の保護と利用—個人情報保護法制関連
- ⑤ 救急医療に関する法と制度（医師法19条応招義務関連含む）
- ⑥ 感染症法・予防接種法の仕組み
- ⑦ 精神保健福祉法の仕組み、「再生医療」の推進と安全確保に関する法と制度等
- ⑧ 医療事故と被害者救済：原因調査と補償の仕組み 他

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特に予習の必要はないと思われるが、テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

(2) 他の授業科目との関連性

同系に開設された他の科目のうち、「3. 3 生命倫理と法」では、本授業と密接に関連する論点が多く、法と倫理の異同等を考察するためにも併せて履修されることを強くお勧めする。それにより「医療関連法規」に関する理解も深まるはずである。

(3) その他

本授業の担当者は法律学（行政法及び医事法）の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加（出席、発言、問題提起等）を希望している。

5. 学生への評価方法

出席およびレポート。

6. 教科書・参考書など

教科書：特に指定しない。
参考書：甲斐克則 編「レクチャー生命倫理と法」（法律文化社）2010 年
その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

7. ハンドアウトの有無

有（適宜レジュメを配布する予定である）

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	6 月 24 日 (月)	ガイダンス: わが国の法体系・医療関連法規概観他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
2	6 月 25 日 (火)	医療従事者、医療提供体制、医療情報と法	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
3	6 月 26 日 (水)	救急医療、感染症法・予防接種法の仕組み	松下一章	
4	6 月 27 日 (木)	精神科医療、再生医療、医療事故原因調査・補償他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp

系 名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	2. 医事紛争と法	
			Medical Disputes and the Law	
科目担当責任教員	滝沢 昌彦(一橋大学大学院法学研究科 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 8 月 26～29 日		連絡先	m.takizawa@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：4032】

1. 科目担当教員

滝沢 昌彦：一橋大学大学院法学研究科 教授
南出 行生：弁護士（東京弁護士会所属）

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 医事紛争と法の基本法理（医療行為、診療契約、医師の権利義務と患者の権利義務、責任根拠、過失、因果関係、損害）を学ぶ。
- ② 医師の民事責任、刑事責任、行政責任について実例に基づき学ぶ。
- ③ 医療過誤判例の基本法理を学ぶ。
- ④ 医療過誤訴訟の実情や訴訟の具体的進め方と問題点を学ぶ。
- ⑤ 臨床現場での医事紛争の問題点と対処方法について考える。
- ⑥ 病院や医師の医療事故防止対策・リスクマネジメントについて考える。
- ⑦ その他、医事紛争をとりまく法律問題、医療過誤裁判の今後とあるべき医療について考える。

(2) 授業の概要

医事紛争の中心である医療過誤の問題について、基本法理を学習し、実際の判例やケース・スタディをもとに問題点を学び、また医療裁判や医事紛争の実状についての概要を知ってもらい、実務に役立つ知識を習得する。

3. 授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である。（受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある）

- ① 基本用語と法理（医事紛争・医療事故・医療過誤、民事責任・刑事責任などの法的責任、行政処分と雇用契約上の処分、損害賠償責任における過失・損害・因果関係、診療契約、医師と医療機関の義務、患者の義務、共同不法行為、使用者責任、過失相殺、安楽死・尊厳死など）
- ② 基本判例と判例法理（説明義務、告知義務、転送義務、患者の同意・自己決定権、医療水準、医療行為と裁量、因果関係、延命利益と期待権、信教と輸血拒否、問診、検査、投薬・注射、手術、麻酔、患者管理、院内感染、救急医療、周産期医療など）
- ③ 医事紛争の発生から訴訟まで（異状死の届出義務、カルテ開示、個人情報保護と情報公開、証拠保全、解剖、診断書、患者側への説明義務とその範囲、示談、医師賠償責任保険）
- ④ 訴訟の流れと判決まで（医療過誤訴訟の現状、迅速な裁判と計画審理、医療専門部、専門員制度、訴状と答弁書、準備書面、争点整理、診療経過一覧表、文書送付嘱託、調査嘱託、診療録・文献・意見書・陳述書その他の書証、証人尋問、鑑定、和解、判決、控訴・上告、弁護士費用・訴訟費用の負担、訴訟対策）
- ⑤ リスクマネジメントと事故防止策、保険
- ⑥ 医療過誤裁判の今後の行方と医療のあり方

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

できれば、レジュメと資料を作成し、遅くとも1週間くらい前に配布したいと考えているので、その範囲で予習してもらえれば、問題点が理解しやすくなる。

(2) 他の授業科目との関連性

「3. 1 医療制度と法」という講座があり、一部重複するところがあるかもしれない。

(3) その他

なるべく一方通行の講義でなく、ケース・スタディを用いて、学生に意見を述べてもらい、討論する時間を多くとりたいと考えている。

5. 学生への評価方法

出席状況、授業への参加の仕方、レポート（「医療過誤・医事紛争について」）を総合して評価する。

6. 教科書・参考書など

特に指定しない。

7. ハンドアウトの有無

有

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクターを使えるようにしたいと考えています。

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	8 月 26 日(月)	基本用語と法理	滝沢 昌彦	m.takizawa@r.hit-u.ac.jp
2	8 月 27 日(火)	ケース・スタディ① 医事紛争の内容、医師と患者の権利と義務	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp
3	8 月 28 日(水)	ケース・スタディ② 医師の注意義務、損害との因果関係	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp
4	8 月 29 日(木)	ケース・スタディ③ 医療過誤訴訟の流れと問題点	南出 行生	BZE14265@nifty.ne.jp

系 名	3. 医療関連法規と医の倫理	科目名	3. 生命倫理と法	
			Bioethics and Law	
科目担当責任教員	磯部 哲(慶應義塾大学法科大学院 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 7 月 16～19 日		連絡先	teisobe@sonata.plala.or.jp

【科目コード：4033】

1. 科目担当教員

磯部 哲 : 慶應義塾大学法科大学院 教授 (行政法)
松下一章 : 国立精神・神経医療研究センター (医事法)

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題の検討

(2) 授業の概要

人の生命の始期・終期に関することがらを中心に、医学・生命科学の発達により惹起される法的・倫理的・社会的諸問題を検討する。また、治療に関わるICと医学研究に関わるそれとの異同等、理論的な問題も提起していきたい。詳細は初回に説明する。

一部は講義形式で行う部分もあるが、例えば遺伝病の告知、生殖補助医療規制の意義と限界、延命治療中止・差し控えに関する判断枠組み、臨床研究のあり方、生体間移植におけるドナー選定の問題、出生前診断と胎児の権利等々の具体的なテーマ（以上はあくまで例示にすぎない）を設定し、「もし倫理委員会の委員としてそうした案件を審議するとしたら、どのような事項をどの程度に考慮しなければならないか」というようなイメージで、実践的な双方向の議論を行うことを通じて考察を深めていきたいとも考えている。

3. 授業計画

以下の各項目を取り上げていく予定である（受講者の希望も聴きながら、随時修正を加えることがある）。

① 医学研究をめぐる諸問題

IC概念の変遷、倫理審査委員会の機能

法令・ガイドライン・学会等による自主規制等の関係等

② 医薬品をめぐる諸問題（治験等、薬事法全般を含む）

③ ヒト胚・クローン技術・再生医療・幹細胞研究、ヒト由来試料の医学的利用、遺伝子解析研究、バイオバンク、コホート等

④ 死体解剖保存法（死体研究利用－ブレインバンクを題材として）

⑤ 終末期医療の諸問題（安楽死、医療の拒否・尊厳死、重度障害新生児の治療）

⑥ 脳死、臓器移植（生体間移植、臓器売買等を含む）

⑦ 人工妊娠中絶をめぐる諸問題

⑧ 生殖補助医療、代理懐胎、着床前・出生前診断と障害児の「生まれる権利」

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特に予習の必要はないと思われるが、テーマに関連した話題提供があれば歓迎する。

(2) 他の授業科目との関連性

同系に開設された他の科目のうち、「3. 1 医療制度と法」では、本授業と密接に関連する論点が多く、法と倫理の異同等を考察するためにも併せて履修されることを強くお勧めする。

(3) その他

本授業の担当者は法学（行政法及び医事法）の研究者であるが、そのような立場からの「一方通行」的な講義・解説に終始するのではなく、参加者との建設的・有意義な対話を通じて新たに問題を発見し理解を深められるような「対話重視」型の授業としたい。その意味で、受講者には積極的な参加（出席、発言、問題提起等）を希望している。

5. 学生への評価方法

出席およびレポート。

6. 教科書・参考書など

教科書：特に指定しない。

参考書：甲斐克則編「レクチャー生命倫理と法」（法律文化社）2010年

その他、参考文献は講義の中で随時紹介する。

7. ハンドアウトの有無

有（適宜レジュメを配布する予定である）

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先（e-mail）
1	7月16日(火)	医学研究と法・倫理(1)、医薬品をめぐる諸問題等	松下一章	
2	7月17日(水)	医学研究と法・倫理(2)、死体解剖保存法他	松下一章	
3	7月18日(木)	終末期医療、脳死・臓器移植	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp
4	7月19日(金)	人工妊娠中絶、生殖補助医療、出生前・着床前診断他	磯部 哲	teisobe@sonata.plala.or.jp

系名	4. 病院情報とセキュリティ	科目名	1. 病院情報管理学	
			Hospital Information Management	
科目担当責任教員	高瀬 浩造(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 7 月 8～11 日		連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：4041】

1. 科目担当教員

高瀬 浩造 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授
松 浦 亨 : 北海道大学大学院社会医療管理学、北海道大学病院 臨床教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 病院が管理する情報の範囲と種別を規定して、認識を深める。
- ② 病院情報と診療情報との意味論的な相違点を確認する。
- ③ 病院情報がどのように利用されるのかについて検討する。
- ④ 今後病院情報を管理する上での問題点について検討する。

(2) 授業の概要

病院が取り扱う情報の種別および量は近年大幅に膨張しており、その管理について医療機関の責任が問われてきている。ここでは、病院情報を診療情報と区別するため、医療機関が扱う情報のクラスであると定義し（診療情報はインスタンスと定義される）、管理すべき緊急度の高い情報種別を中心に議論する。また、情報の使用目的、個人情報保護との係わり、病院情報システムについても理解を深める。

3. 授業計画

- ① 情報の定義、種別と範囲
- ② 病院情報の管理とは
- ③ 病院管理・経営に必要な病院情報インスタンス
- ④ 公的に要求される病院管理情報
- ⑤ 個人情報保護法と病院情報安全管理
- ⑥ 病院情報システムの概要

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

特に無いが、医療機関での情報管理の実態について考察しておくこと。また、情報理論の一般知識を持っていた方が理解しやすいので、簡単に一般書レベルで構わないので、目を通しておくこと。

(2) 他の授業科目との関連性

「6. 2 診療情報管理学」。その他の大半の授業科目での情報ソースに対応している。

(3) その他

積極的な議論参加が要求される。

5. 学生への評価方法

出席およびレポート。

6. 教科書・参考書など

参考書：福田剛久・高瀬浩造 編「医療訴訟と専門情報」（判例タイムズ社）

7. ハンドアウトの有無

有。

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	7 月 8 日(月)	情報管理の基礎	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
2	7 月 9 日(火)	医療機関における情報管理	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	7 月 10 日(水)	医療分野での情報化	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	7 月 11 日(木)	大学病院での病院情報インスタンス	松 浦 亨	macchan@med.hokudai.ac.jp

系 名	4. 病院情報とセキュリティ	科目名	2. 診療情報管理学	
			Health Information Management	
科目担当責任教員	伏見 清秀(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策情報学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 7 月 22～24, 26 日		連絡先	kfushimi.hci@tmd.ac.jp

【科目コード：4042】

1. 科目担当教員

伏見 清秀 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医療政策情報学分野 教授
 麻生 玲子 : (株)健康保険医療情報センター
 前田 まゆみ : 東京医科歯科大学 非常勤講師
 桑原 比呂世 : アストラゼネカ株式会社

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 診療情報管理の概念とその実務を理解すること。
- ② 診断群分類および包括評価の概念と実務およびそれらの医療管理評価への応用を理解すること。
- ③ 診療情報、統計情報等のデータマネージメントと研究的活用方法を理解すること。

(2) 授業の概要

診療情報管理、診断群分類、包括評価、厚生統計等に関する最新の資料を配付し、プレゼンテーションを用いて講義を行った上で、質疑応答や学生の実務上の経験や意見に基づく討論等で理解を深める。配布使用予定の資料としては、ICD10 コーディングのガイドライン、診断群分類 DPC に関する中協資料抜粋と厚生労働省研究報告書抜粋、包括評価対応のためのマニュアル、厚生労働省諸統計の概要と研究報告書抜粋、諸論文の抜粋等を予定している。

3. 授業計画

- 第1日：診療情報管理総論、診療録管理の理論と実務、傷病名コーディングの理論と実務、診療報酬関連情報管理の実務、診断群分類の導入と効率的診療情報管理等に関する講義と討論（麻生講師）
 診療情報と医療倫理（前田講師）
- 第2日：診断群分類の理論と国際比較、日本版診断群分類DPCと包括評価の理論と実務、診断群分類を用いた医療管理の理論と実務等に関する講義と討論
- 第3日：診断群分類を用いた医療の評価、我が国の医療提供体制の評価への診断群分類の応用、地域医療資源配分計画、地域保健医療計画と診断群分類等に関する講義と討論
- 第4日：DPCデータ等の医療業務データの分析手法（桑原講師）

4. 授業に際し学生の留意点

(1) 授業への準備・予習

診療記録関連の法的背景、診療録の電子記録、診療記録の作成技法等については触れる時間がほとんど無いため、他講または参考書にてその概略を理解しておくことが望ましい。

(2) 他の授業科目との関連性

医療提供体制の設計と評価の点で「1. 1 医療提供政策論」と、診療情報の電子化や病院システムとの関連で「4. 1 病院情報管理学」と関連すると考えられる。

(3) その他

特になし。

5. 学生への評価方法

出席およびレポートの予定。

6. 教科書・参考書など

参考書：「DPCデータ活用ブック・第二版」（じほう社）
 「21世紀の医療と診断群分類」（じほう社）
 「DPCと病院マネジメント」（じほう社）
 「民間病院におけるDPC導入事例集」（じほう社）
 「疾病、傷害および死因統計分類提要」第2巻（厚生統計協会）
 「医療科学」第2版（医学書院） 等

7. ハンドアウトの有無

有。

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	7月22日(月)	診療情報管理の基礎・診療情報と医療倫理	麻生 玲子 前田まゆみ	
2	7月23日(火)	医療情報の標準化とDPC 診断群分類包括評価	伏見 清秀	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
3	7月24日(水)	診療情報を用いた医療評価	伏見 清秀	kfushimi.hci@tmd.ac.jp
4	7月26日(金)	診療情報分析手法	桑原 比呂世	

系 名	7. 経営戦略と組織管理	科目名	2. 財務・会計	
			Finance / Accounting	
科目担当責任教員	荒井 耕(一橋大学大学院商学研究科 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 10 月 26～27 日		連絡先	ko.arai@r.hit-u.ac.jp

【科目コード：4072】

1. 科目担当教員

荒井 耕 : 一橋大学大学院商学研究科 教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

医療界における管理会計について理解を深める。

(2) 授業の概要

まず管理会計の基礎的内容について講義し、次いで責任センターマネジメントとしての管理会計、戦略遂行マネジメントとしての管理会計（医療界におけるバランスト・スコアカード）、提供プロセスマネジメントとしての管理会計（医療サービス価値企画）、経営情報マネジメントとしての管理会計（医療界における原価計算）について詳細に議論する。

3. 授業計画

- ① 管理会計の基礎と責任センターマネジメントとしての管理会計
- ② 医療界におけるバランスト・スコアカード
- ③ 医療界における原価企画（医療サービス価値企画）
- ④ 医療界における原価計算

4. 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
あらかじめテキストをよんでおくこと。
- (2) 他の授業科目との関連性
「7.1 戦略と組織」の授業をよく理解しておくことよい。
- (3) その他
特になし。

5. 学生への評価方法

授業及び教科書の熟読を踏まえた上での医療管理会計に関するレポートで評価。

6. 教科書・参考書など

教科書：荒井 耕「医療バランスト・スコアカード：英米の展開と日本の挑戦」（中央経済社）2005年
 荒井 耕「医療原価計算：先駆的な英米医療界からの示唆」（中央経済社）2007年
 荒井 耕「病院原価計算：医療制度適応への経営変革」（中央経済社）2009年
 荒井 耕「医療サービス価値企画：診療プロトコル開発を通じた費用対成果の追求」（中央経済社）2011年
 をテキストとする。

7. ハンドアウトの有無

未定

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	10 月 26 日 (土)	管理会計の基礎と責任センターマネジメントとしての管理会計	荒井 耕	ko.arai@r.hit-u.ac.jp
2	10 月 26 日 (土)	医療界におけるバランスト・スコアカード	荒井 耕	ko.arai@r.hit-u.ac.jp
3	10 月 27 日 (日)	医療界における原価企画(医療サービス価値企画)	荒井 耕	ko.arai@r.hit-u.ac.jp
4	10 月 27 日 (日)	医療界における原価計算	荒井 耕	ko.arai@r.hit-u.ac.jp

系 名	9. 医療における情報発信	科目名	3. 医学概論	
			Introduction to Medicine	
科目担当責任教員	高瀬 浩造(東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授)			
授業予定年月日	平成 25 年 5 月 8～10 日、6 月 13 日		連絡先	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

【科目コード：4093】

1. 科目担当教員

高瀬 浩造 : 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科研究開発学分野 教授

2. 授業の目標・概要

(1) 授業の目標

- ① 非医療系の出身者にとっての医学・医療の概要を理解する。
- ② 医学と他の自然科学との相違点を確認する。
- ③ 医療においてどのように決定がなされるのかについて検討する。
- ④ 医療における診断と治療を実施する上での問題点について検討する。
- ⑤ 日本における医療が受けているストレスについて説明できるようになる。
- ⑥ 最低限必要な研究計画立案、論文作成の基礎を習得する。

(2) 授業の概要

現在の日本の高等教育課程においては、医歯学・薬学・看護学などの臨床にかかわる分野に進学しない限り、医学の概要を学ぶことができないという現状がある。このことは、社会が医学については医療を誤解する誘因となっているとも考えられる。医療管理政策学コースにおいては、入学者は必ずしもこの医療系の出身者ばかりではないため、医療人の思考過程の根底また価値判断の背景が理解しにくいという問題がある。この科目では、短時間の教育により医学の学問的概要と医療の実践的過程を解説し、必要最小限の理解を得ることを目的とする。これにより、一般社会と医学・医療との認識の隔たりの原因を探究するとともに、医療管理政策学を学習する上での医療の前提条件あるいは医学のコンセンサス形成の実態を習得する。この科目は、非医療系の出身者にとっては必須のものであると考えるが、医療系出身者にとっても、医学・医療の背景を整理する上で有意義かもしれない。

3. 授業計画

- ① 自然科学の中での医学の特徴
- ② サービス業としてみた医療の特徴
- ③ 診断学概要
- ④ 治療学概要
- ⑤ 医療にかかわる死生観
- ⑥ 医療と患者のリスク共有
- ⑦ 医療における情報
- ⑧ 医療のメンタリティー
- ⑨ 研究計画立案、概念分析、論文作成法

4. 授業に際し学生の留意点

- (1) 授業への準備・予習
特に無いが、医療についての自分なりの考えを持っておくこと。
- (2) 他の授業科目との関連性
特にない。
- (3) その他
積極的な議論参加が要求される。

5. 学生への評価方法

出席およびレポートを予定

6. 教科書・参考書など

講義中に紹介予定

7. ハンドアウトの有無

有。

8. 講義で使用するメディアの種別

PC+プロジェクター

9. 日程

回数	日時	講義内容	担当者	担当者連絡先 (e-mail)
1	5 月 8 日(水)	医学・医療の特徴	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
2	5 月 9 日(木)	診断学・治療学概要	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
3	5 月 10 日(金)	日本の医療の問題	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp
4	6 月 13 日(木)	概念分析・論文作成法	高瀬 浩造	ktakase.rdev@tmd.ac.jp

○他大学生の施設の利用

履修上必要な施設・設備（付属図書館、食堂等）を利用することができる。

○学内の掲示

大学から学生の皆さんへの告知や連絡は、履修登録時に提出した連絡票のメールアドレスへ送信します。また、下記の掲示板にも掲示することにより、周知したものとして取り扱うこととします。

＜公用掲示板＞

- ・教務課掲示板…1号館西1階、教務課前
- ・大学院掲示板…6号館（わくわく保育園横）

○生活協同組合

生活協同組合は、5号館の地階及び1階にあり、地階が売店、1階が食堂。

○図書館

○場 所： 湯島地区 M&Dタワー3・4階（図書館入り口は3階）

○開館時間： 平 日 8:30～22:00 土・日・祝日 10:00～18:30

（注）平日19:30以降、および土・日・祝日は、M&Dタワー1階玄関は施錠されています。インターフォンで防災センターに解錠を依頼してください。

○休 館 日： 年末年始

○入館手続： 初回に、がんプロの履修者であること、特別聴講生であること、在学期間は履修登録をしている科目の最終講義日を伝えて下さい。図書館利用証を発行します。2回目以降は、入館ゲートに図書館利用証をタッチしてください。

○貸出・返却

1. 貸出冊数： 図書・製本雑誌＝5冊（未製本雑誌の貸出は不可）
2. 貸出期間： 図書＝2週間、製本雑誌＝1週間
3. 貸出手続： 自動貸出機（図書館利用証が必要）
4. 返 却： 開館時間中＝受付 閉館中＝ブックポスト（図書館入り口）

○文献複写： 有料複写機（3・4階）

○自動書庫： 製本雑誌を収納（取り出しには、図書館利用証が必要）

○電子ジャーナル・電子書籍・データベース： 利用は学内のみ（図書館で閲覧可）

詳細は、図書館ホームページ（<http://lib.tmd.ac.jp/>）「図書館利用案内」をご覧ください。

○キャンパス案内

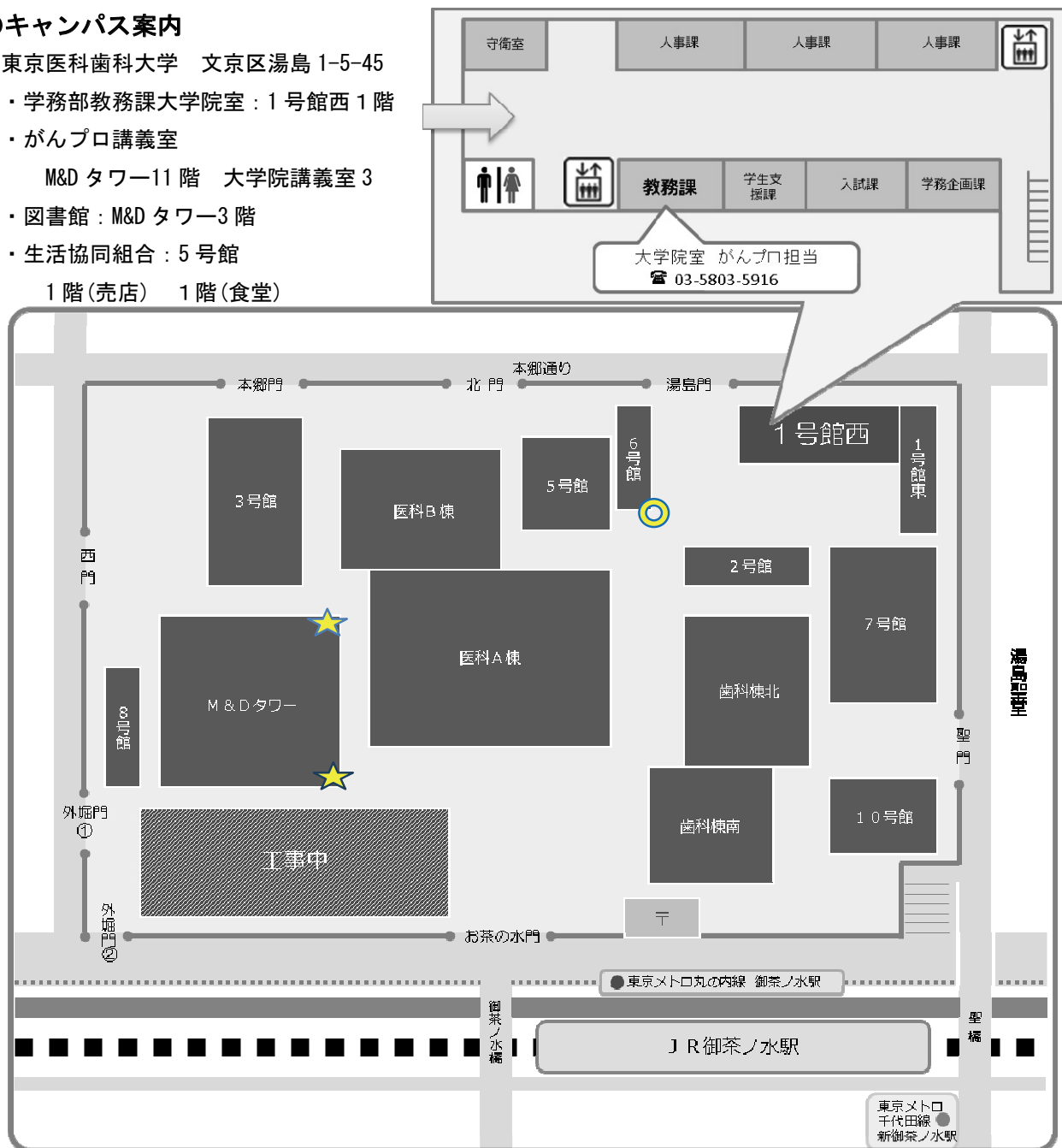
東京医科歯科大学 文京区湯島 1-5-45

- ・学務部教務課大学院室：1号館西1階
- ・がんプロ講義室

M&Dタワー11階 大学院講義室3

- ・図書館：M&Dタワー3階
- ・生活協同組合：5号館

1階(売店) 1階(食堂)



☆建物入り口 M&Dタワーの入口は19時からロックがかかります。

19時以降にいらっしゃる学外の方は入口のインターフォンでお知らせ下さい。

◎大学院掲示板



M&Dタワー

← 1階正面入口

1階裏側入口→



【注意】工事中につき経路、入口等の変更がある場合があります。

東京工業大学 田町キャンパス

CIC（キャンパス・イノベーション・センター）

